

2010年度

事業報告書

学校法人 桜美林学園

2011年5月28日

目次

ごあいさつ

I. 法人の概要

1. 建学の精神、目的
2. 学校法人の沿革
3. 設置する学校、学群、学部、学科等
4. 当該学校、学群・学部・学科等の定員、在籍者数の状況
5. 役員の状況
6. 評議員の状況
7. 教職員の状況

II. 事業の概要

1. 桜美林学園中期目標
2. 学園全体
3. 大学（大学院・別科を含む）
4. 中学校・高等学校
5. 幼稚園
6. 施設・設備

III. 財務の概要

1. 決算の状況
 - (1) 収入
 - (2) 支出
 - (3) 資産
 - (4) 財務比率等
2. 資金調達および借入金の状況
3. 監査の状況

(添付資料)

- (1) 資料 (1 - 1) 貸借対照表 (2006 年度末～2010 年度末)
- (2) 〃 (1 - 2) 貸借対照表 (指数表示) (2006 年度末～2010 年度末)
- (3) 〃 (2) 消費収支の推移 (2006 年度～2010 年度)
- (4) 〃 (3) 資金収支の推移 (2006 年度～2010 年度)
- (5) 〃 (4) 活動区分別資金収支の推移 (2006 年度～2010 年度)
- (6) 〃 (5) 5 ヶ年連続財務比率表 (2006 年度～2010 年度)

ごあいさつ

2010年度の事業報告にあたって

理事長 佐藤 東洋士

本年3月11日（金）に発生した「東日本大震災」により、被災された多くの方々に、衷心よりお見舞い申しあげます。この大震災により、陸前高田市の実家において桜美林大学在籍の学生1名が貴重な命を落とすこととなってしまいました。被災で亡くなられた方々、ご遺族の皆様には哀悼の意を表するとともに、一刻も早い復興を心からお祈り申し上げます。学校法人桜美林学園では、被災により修学に支障が生ずる学生の皆さんに、学費減免等可能な限りの支援を行って参りたいと考えています。

桜美林学園は、2005年にミッションステートメントを公表し、学園としての将来構想についてのフレームワークを策定しました。そして、学園創立100周年を迎える2021年に実現すべき長期ビジョンを設定し、長期ビジョン実現のための基礎固めとして、2009年度に今後5年間における「中期目標」を定め、2010年度から同目標に沿った具体的施策を講じています。

2010年度に実施した事業内容の詳細は後述のとおりですが、大学においては、新たなシステムとして先進的に導入しました学群・学系の教育研究組織もリベラルアーツ学群の完成年度を迎え、本学が標榜する教育研究成果は着実に具体化しているものと確信しています。また、桜美林中学校・高等学校においては、キリスト教教育を充実させ、中高一貫教育についての議論を深めるなど教育内容のさらなる充実を図ってきました。さらに桜美林幼稚園においても、キリスト教保育を基盤とし、バランスの取れた保育を展開いたしました。

財政面では、大学学群の学年進行による学生数増加を伴う収入増や管理等経費の削減努力により、帰属収支差額が前年度に比し増加するなど財務状況の改善を図ることができました。そうした努力の結果として、長期優先債務を対象とした格付の「A」（シングルAフラット）および見通しも「安定的」を維持することができました。少子化等に加え、震災による景気停滞も懸念されるなど、本学園を取り巻く経営環境は厳しいものがありますが、質の高い教育、より安全・快適な教育環境の提供等、着実に改善の努力を傾注していく所存でありますので、学園を支えていただいている皆様の更なるご支援とご協力をお願いいたします。

2011年5月28日

I. 法人の概要

1. 建学の精神、目的

桜美林学園は「キリスト教精神に基づく国際人の育成」を建学の理念とし、単に知識だけではなく、在学中に幅広い教養や判断力を身につけさせ、どのような場面においても他者を理解し、協調性をもって物事に取り組める人材を育成することを教育の理想としています。その教育の理想を実現するために、リベラルアーツ教育、国際教育を掲げて、未来に向けての教育活動を展開しています。教育とは、それぞれの人格を尊重し、その個性を伸ばしながら、より優れた人間へと創造する活動であり、学園の創立者・清水安三は「がくじしじん学而事人」、また「せかた爲ん方つくれどものぞみ希望を失はず」の精神を説きました。桜美林学園のミッションは、まさしくこの「学んで人に仕える」の精神をより完成されたものへと作り上げることであり、他者の痛みを理解できる人材、国際舞台で活躍できる優れた人材を世に送り出すことにあります。学園のモットーである「**艱難を経て栄光に至る (per patientiam ad gloriam)**」の精神を実践し、希望を持ち続けることのできる人材、自らの未来や新しい時代を担う人材を育成するという学園としての教育目標を掲げて、21世紀にふさわしい学びの場としての学園経営に努めています。

2. 学校法人の沿革

学校法人桜美林学園は、創立者・清水安三が、1921年に中国北京市朝陽門外において、貧困に苦しむ子どもたちの自立を願って設立した、「崇貞学園」が前身です。1946年5月29日に東京都町田市に設立された本学園は、崇貞学園の(イ)国籍を問わず国際的人材として通用する学生の教育、(ロ)キリスト教を基礎とする教養人の育成、(ハ)キリスト教精神にもとづいて社会に貢献できる者の育成、という建学の理念をそのまま継承しており、寄附行為には「**基督教主義により男女青少年に知識技能を授け、人格教育を行い、国家及び世界のため貢献する有益な人材を育成することを以って目的とする**」という本学園の理念が記されています。現在本学園は、桜美林大学(大学院、日本語文化学院、孔子学院を含む)、桜美林高等学校、桜美林中学校、桜美林幼稚園を設置しています。

(簡易年表)

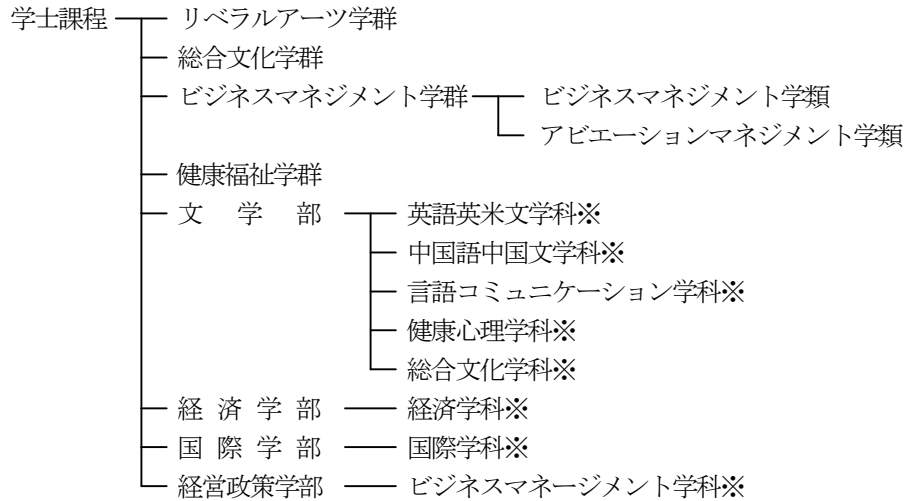
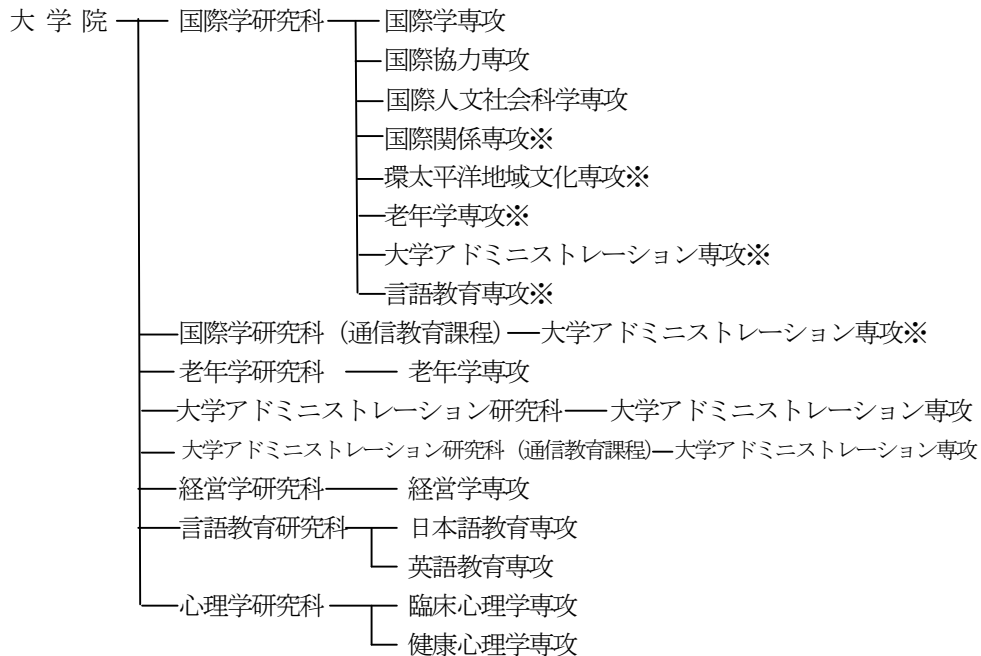
1921年5月	中国北京市朝陽門外に崇貞学園を創立。
1946年5月	財団法人桜美林学園(高等女学校、英文専攻科)を創立。
1947年4月	桜美林中学校を開校。
1948年4月	桜美林高等学校を開校。これに伴い高等女学校は廃止。
1950年4月	桜美林短期大学(英語英文科・実務英語課程)を開学。これに伴い英文専攻科は廃止。

1951年2月	組織変更により、学校法人桜美林学園認可。
1955年4月	短期大学に家政科を増設。
1966年4月	桜美林大学（文学部英語英米文学科、中国語中国文学科）を開学。
1968年4月	大学に経済学部経済学科を開設。 桜美林幼稚園を開園。
1972年4月	大学経済学部商科を増設。
1989年4月	大学に国際学部国際学科を開設。 短期大学家政科を生活文化学科に名称変更。
1993年4月	大学院国際学研究科修士課程（国際関係専攻、環太平洋地域文化専攻）を開設。
1995年4月	大学院国際学研究科博士後期課程（国際関係専攻、環太平洋地域文化専攻）を設置。
1997年4月	大学に経営政策学部ビジネスマネジメント学科を開設。これに伴い経済学部商学科は募集停止。
2000年4月	大学文学部に言語コミュニケーション学科、健康心理学科、総合文化学科を増設。 短期大学生活文化学科を募集停止。
2001年4月	大学院国際学研究科に大学アドミニストレーション専攻修士課程、言語教育専攻修士課程を増設。
2002年4月	大学院国際学研究科に人間科学専攻修士課程、老年学専攻修士課程を増設。 短期大学を桜美林大学短期大学部に名称変更。
2003年4月	プラネット淵野辺キャンパス（PFC）を開設。
2004年4月	大学院に国際学研究科（通信教育課程）大学アドミニストレーション専攻修士課程を開設。 大学院国際学研究科に老年学専攻博士後期課程を増設。 大学院国際学研究科国際関係専攻博士前期課程と環太平洋地域文化専攻博士前期課程を国際学専攻博士前期課程に統合。
2005年4月	大学に総合文化学群を開設。これに伴い文学部総合文化学科は募集停止。 短期大学部を募集停止。
2005年9月	大学に日本語文化学院（留学生別科）を開設。
2006年4月	大学に健康福祉学群、ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類を開設。これに伴い文学部健康心理学科、経営政策学部ビジネスマネジメント学科は募集停止。

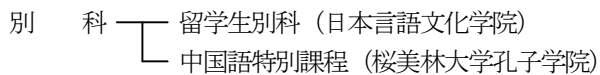
	大学に桜美林大学孔子学院(中国語特別課程)を開設。
2007年4月	大学にリベラルアーツ学群を開設。これに伴い文学部英語英米文学科・中国語中国文学科・言語コミュニケーション学科、経済学部経済学科、国際学部国際学科は募集停止。 短期大学部を廃止。
2008年4月	四谷キャンパスを開設。 大学ビジネスマネジメント学群にアビエーションマネジメント学類を増設。 大学院に老年学研究科老年学専攻博士前期課程・博士後期課程、大学アドミニストレーション研究科大学アドミニストレーション専攻修士課程並びに大学アドミニストレーション研究科(通信教育課程)大学アドミニストレーション専攻修士課程を開設。これに伴い国際学研究科老年学専攻博士前期課程・博士後期課程、大学アドミニストレーション専攻修士課程並びに国際学研究科(通信教育課程)大学アドミニストレーション専攻修士課程は募集停止。
2009年4月	大学院国際学研究科に国際協力専攻修士課程を増設。 大学院国際学研究科国際関係専攻博士後期課程を人文社会科学専攻博士後期課程に名称変更。 大学院に経営学研究科経営学専攻修士課程、心理学研究科臨床心理学専攻修士課程・健康心理学専攻修士課程、言語教育研究科日本語教育専攻修士課程・英語教育専攻修士課程を開設。 大学院国際学研究科人間科学専攻修士課程、言語教育専攻修士課程、環太平洋地域文化博士後期課程は募集停止。
2010年5月	桜美林大学多摩アカデミーヒルズを開設。

3. 設置する学校、学群、学部、学科等

(1) 桜美林大学



※学生募集停止



(2) 桜美林高等学校 — 全日制課程

(3) 桜美林中学校

(4) 桜美林幼稚園

4. 当該学校、学群・学部・学科等の定員、在籍者数の状況

(2010年5月1日現在)

設置する学校、学群、学部、学科等名		入学定員	収容定員	在籍者数
桜	国際学研究科 国際学専攻 博士前期課程	10	20	50
	国際学研究科 国際協力専攻 修士課程	10	20	11
	国際学研究科 国際人文社会科学専攻 博士後期課程	10	20	13
	国際学研究科 国際関係専攻 博士後期課程	—	3	8
	国際学研究科 環太平洋地域文化専攻 博士後期課程	—	3	11
	国際学研究科 老年学専攻 博士前期課程	—	—	2
	国際学研究科 老年学専攻 博士後期課程	—	—	4
	国際学研究科 大学アドミニストレーション専攻 修士課程	—	—	5
	国際学研究科 言語教育専攻 修士課程	—	—	14
	国際学研究科(通信教育課程) 大学アドミニストレーション専攻 修士課程	—	—	10
美	老年学研究科 老年学専攻 博士前期課程	20	40	37
	老年学研究科 老年学専攻 博士後期課程	3	9	11
林	大学アドミニストレーション研究科 大学アドミニストレーション専攻 修士課程	20	40	20
	大学アドミニストレーション研究科(通信教育課程) 大学アドミニストレーション専攻 修士課程	40	80	93
	経営学研究科 経営学専攻 修士課程	30	60	47
	言語教育研究科 日本語教育専攻 修士課程	30	60	38
大	言語教育研究科 英語教育専攻 修士課程	10	20	2
	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	13	26	26
学	心理学研究科 健康心理学専攻 修士課程	17	34	19
	大 学 院 計	213	435	421
大	リベラルアーツ学群	950	3,800	4,403
	総合文化学群	250	1,000	1,143
	ビジネスマネジメント学群 ビジネスマネジメント学類	320	1,360	1,673
	ビジネスマネジメント学群 アピエーションマネジメント学類	80	240	272
学	健康福祉学群	200	800	966
	文学部 英語英米文学科	—	—	38
	文学部 中国語中国文学科	—	—	18
	文学部 言語コミュニケーション学科	—	—	25
	文学部 健康心理学科	—	—	3
	文学部 総合文化学科	—	—	4
	経済学部 経済学科	—	—	37
	国際学部 国際学科	—	—	47
	経営政策学部 ビジネスマネジメント学科	—	—	9
	学 士 課 程 計	1,800	7,200	8,638
	留学生別科 (日本言語文化学院)	120	120	150
	中国語特別課程 (桜美林大学孔子学院)	40	40	18
	別 科 計	160	160	168
	大 学 合 計	2,173	7,795	9,227
桜美林高等学校	320	960	1,028	
桜美林中学校	160	480	483	
桜美林幼稚園	—	160	163	
合 計	2,653	9,395	10,901	

5. 役員状況

(2011年3月31日現在)

(1) 理事(任期3年)

○印は基督者(10人)

号	選任区分	定数	氏名		備考
1号	学校の長	4人以内 (3人)	佐藤東洋士	○	理事長、桜美林大学長
			本田 栄一	○	常務理事、桜美林中学校・高等学校長
			羽根田 実	○	常務理事、桜美林幼稚園長
2号	評議員	1人	小崎 公平	○	
3号	学識経験者	10人以上 (10人)	小川 欣亨		
			川合 貞義	○	常務理事
			土橋 信男	○	
			西村 義臣	○	
			三田 幸子	○	
			柳原鐵太郎	○	
			向井 孝次		
			岩田美恵子	○	
			小磯 明	○	常務理事
			田村 恵美		
	計	15人	14人	11	

(2) 監事(任期3年)

		定数	氏名	備考
		2人	小椋 郊一	
			名取 襄一	
	計	2人	2人	

6. 評議員の状況

(2011年3月31日現在)

(任期3年)

○印は基督者(過半数以上)

号	選任区分	定数	氏名		備考
1号	基督者又は基督教に理解ある教職員	12人以内 (12人)	佐藤東洋士	○	桜美林大学長
			本田 栄一	○	桜美林中学校・高等学校長
			羽根田 実	○	桜美林幼稚園長
			茂木 俊彦		桜美林大学教授
			清水 賢一	○	桜美林高等学校教諭
			寺井 泰明		桜美林大学教授
			藤崎 堅信	○	桜美林高等学校教頭
			宮下 幸一		桜美林大学教授
			小池 一夫		桜美林大学大学院部長
			大道 卓	○	桜美林大学リベラルアーツ学群長
			伊藤 孝久	○	桜美林中学校・高等学校事務室長
			ブルース・バートン	○	桜美林大学学長特別補佐(国際戦略担当)
2号	卒業生	6人 (6人)	矢口 孝明		
			岩井 清治	○	桜美林大学教授・キャリア開発センター長
			三宅 洋		
			大越 孝	○	桜美林大学副学長
			金田 準		
			出口 告	○	
3号	援助者	13~18人 (13人)	三谷 高康	○	桜美林大学教授、桜美林学園宗務部長
			柴 適	○	
			伊藤 忠彦	○	
			岩田美恵子	○	
			田中 洋子		
			時田 宝文		
			小野 俊夫		
			小磯 明	○	
			田中 逸穂		
			相澤 潤子		
			菅井 祐子	○	
			田村 恵美		
小崎 公平	○				
		31~36人	31人	18	

7. 教職員の状況

(2010年5月1日現在)

区 分			2010年度 (A)	2009年度 (B)	増減 (A)－(B)
教 員	大 学	本 務	291	285	6
		兼 務	586	533	53
		計	877	818	59
	高等学校	本 務	50	47	3
		兼 務	43	41	2
		計	93	88	5
	中 学 校	本 務	28	27	1
		兼 務	14	13	1
		計	42	40	2
	幼 稚 園	本 務	9	9	0
		兼 務	7	5	2
		計	16	14	2
	教 員 計	本 務	378	368	10
		兼 務	650	592	58
		計	1,028	960	68
職 員	本 務	153	158	▲5	
	兼 務	143	136	7	
	計	296	294	2	
教職員合計	本 務	531	526	5	
	兼 務	793	728	65	
	計	1,324	1,254	70	

II. 事業の概要

1. 桜美林学園中期目標

本学園は、学園創立100周年（2021年）に向けて、「自己を高め、自己の責任を果たしうる人材を育成する」および「豊かな教養をもった国際的人材を育成する」という長期ビジョンを設定しました。そして2010年度からの5年間の長期ビジョン実現のための基盤固めの期間として位置付け、「桜美林学園中期目標」として12の課題を礎石（CORNER

STONE) として決めました。

- CORNERSTONE 1 キリスト教精神の浸透
- CORNERSTONE 2 教育研究活動の充実
- CORNERSTONE 3 高度に国際化された教育システムの確立
- CORNERSTONE 4 地域貢献力の強化
- CORNERSTONE 5 学生・生徒支援体制の充実
- CORNERSTONE 6 ブランドの構築
- CORNERSTONE 7 本学園が望む学生を確保する仕組
- CORNERSTONE 8 アカウンタビリティの確保
- CORNERSTONE 9 組織機構と人事管理の改革
- CORNERSTONE 10 健全な財務の構築と維持
- CORNERSTONE 11 質量両面でのキャンパス高度化
- CORNERSTONE 12 情報システムの高度化

この中期目標を学園内に浸透させるべく、冊子を作成して全教職員に配布するとともに、保護者ならびに一般社会への情報発信として学園のホームページに掲載しました。

初年度の2010年度は、大学を取り巻く環境や本学の教育研究の特徴などを再確認し、本学が直面する問題や課題を共有するなど目標達成に向けた議論を深めました。また、具体的な作業日程を策定した上で実施状況を確認するとともに次年度の年度計画を作成しました。

2. 学園全体

(1) キリスト教精神の浸透

学校礼拝（チャペルアワー・中高礼拝・教職員朝礼拝）を実施し、毎朝の教職員朝礼拝において聖書朗読・讃美歌合唱と共に、キリスト教の基本理解を深めるべく小説教がなされています。新任教職員オリエンテーションに際して、宗務部長による「建学の精神」ならびに「ハラスメント防止」に関するレクチャーを実施しており、また全国各地で開催されている大学の保護者懇談会では、初めにチャプレンが礼拝を司り、保護者に対し「建学の精神」の浸透に努めています。また、キリスト教関連科目に関する授業を開講しているほか、オビリン・クリスチャンクラブ（OCC）による聖書研究も行われています。

キリスト教学校教育同盟と連携しており、同盟100周年のキリスト教学校教育同盟第98回総会（2010年度総会）では会場校として、同盟の諸活動に貢献すると共に、各部門の委員会組織、研修会等に委員を送り出すなど積極的な連携を図ってきました。2009年度より、同盟の下部組織であるキリスト教文化学会の幹事校としての責務を担いましたが、2010年度に同志社大学へ幹事校の引き継ぎをおこないました。日本基督教団並びに地域教会との連携は、日本基督教団西東京教区総会正議員

に桜美林学園から選出されており、地域の諸教会へもチャプレンが説教や講演に出向くなど協力関係を保っています。中高礼拝および大学チャペルアワーにおいて、近隣教会の牧師を説教に招いて人的交流を図っています。諸外国のキリスト教学校との連携に関しては、ACUCA（The Association of Christian Universities and Colleges in Asia）に加盟し、総会及び委員会に代議員を送り出しています。地域連携として、チャプレン室所属のクワイヤー（聖歌隊）による国内各地の教会を会場にした演奏旅行を行い、クリスマス時季に、クワイヤーによる恒例のメサイア・コンサートを実施しました。毎年恒例の学園周辺地域住民をお招きしてのオビリン・クリスマス（キャンドルライトサービス&クリスマスコンサート）は、ほぼ満席となる550名の参加者を得ました。

設置校間の連携として、幼稚園・中高・大学合同して学園全体の「合同宗教委員会」を定期的で開催し、情報と課題の共有を図っています。

（2）募金活動等

維持寄付金については、保護者および学園教職員に対して通年で募集活動を行いました。

募金額 13,940,660 円

学園債については、利率を1%として年4回発行しました。

3年債 200,900,000 円（115件）

4年債 45,600,000 円（42件）

合計 246,500,000 円（156件）

また、学園債償還が始まり、年4回償還手続きを行いました。

2007年度3年債等

元本 65,700,000 円

利息 1,938,000 円

寄付 185,000 円（元本・利息から維持寄付金へ振替）

差引 67,453,000 円（実償還額合計）

（3）桜美林学園アメリカ財団

大学の留学生の受け入れや送り出し、および北米における教育交流の窓口や卒業生ネットワーク構築等の委託業務を担うべく桜美林学園アメリカ財団を設立しました。米国国税庁より免税資格も取得し、サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク（JUNBA）に加盟しました。

(4) 学園創立 90 周年記念コンサート

1921 年の崇貞学園設立から数えて 90 周年となる 2011 年、「桜美林大学春の音楽祭」が 3 月 5 日、東京オペラシティーコンサートホール・タケミツメモリアルで開催されました。総合文化学群音楽コースの教員、オーケストラ、クワイヤーが共演し、音楽コースの学生を中心に、卒業生や教職員が加わった合唱団も結成されました。

(5) 事務職員研修

新入職員（新卒）に対してはマナー講習を実施、若手職員については、私立大学庶務課長会主催の職員基礎研修会やキリスト教学校教育同盟主催のセミナー参加を課しました。通算常勤歴 3 年以上の職員については大学アドミニストレーション専攻（通学課程）正規生の学内募集を行っており、過年度からの継続を含めて 5 名が在籍しています。実務担当職員には長期研修として、日本私立学校振興・共済事業団、大学基準協会、日本高等教育評価機構、日本学術振興会、相模原・町田大学地域コンソーシアムに各 1 名を派遣（継続）しました。全職員を対象に、大学アドミニストレーション専攻（通信教育課程）の科目等履修生、オープンカレッジおよび孔子学院主催の公開講座への参加希望者を募集しました。

(6) 格付レビュー

学園経営における財務的な面での健全性を第三者の評価機関の指標により客観的に把握するとともに、学園運営上の一つの重要な指標とするために、株式会社日本格付研究所（JCR）のレビューを行い、長期優先債務を対象とした格付「A（シングルAフラット）」、「見通しは安定的」を維持しました。

(7) 災害対応

2 月 22 日（火）に発生したニュージーランド・クライストチャーチ地震では、大学・春期プログラム（クライストチャーチ工科大学）の 17 名を早期（2 日）帰国させました。この他、フライト・オペレーションコースの 15 名、GOプログラムの 5 名、自主留学（休学）の 3 名を含めて全員の無事が確認され、けが人はいませんでした。

3 月 11 日（金）の東北地方太平洋沖地震・東日本大震災では、発生直後設置校ごとに定められた場所に避難し、キャンパス内においてけが人は出ませんでした。陸前高田市に帰省中の大学生 1 名が行方不明（後に死亡を確認）となりました。当日はキャンパスの大半が停電となり、学内施設にも相応の被害がありました。幼稚園では 23:30 までに園児・教職員全員の帰宅を確認しました。中高では帰宅困難な生徒を含め約 200 名が老実館に宿泊し、翌日 11:00 までに生徒全員が帰宅しました。大学エリアでは帰宅困難な学生および来校者を含め約 150 名が国際寮に宿泊し、翌日昼頃までに、JR 横浜線の運行を確認して

帰宅しました。四谷キャンパスでは帰宅困難者 19 名が宿泊し、翌日 12:00 までに全員が帰宅しました。備蓄していた食糧、水、毛布などを使ったほか、株式会社桜美林サービスからお弁当や飲料の提供もありました。大学、高校、および中学校の卒業式は中止とし、幼稚園は予定通り実施しました。2011 年度の入学式・入園式について、高校、中学校、幼稚園は予定通りに実施することを決定し、大学は中止として、代わりに入学記念礼拝を学内において 4 月 22 日（金）に行うことを決定しました。また、大学は学事暦を 3 週間繰り下げ、授業開始を 5 月 2 日（月）にすることを決定しました。

大学では災害救助法適用地域出身の学生について電話、Eメール等で安否確認を行い、被災状況を確認するとともに、経済的支援策を取りまとめて対応し、被災学生支援金（寄付金）の募集を開始しました。心のケアについては、保健室と学生相談室が対応することをホームページに掲載しました。その他被災者支援一般については、チャプレン室が日本キリスト教団と連携して被災地に必要な物資を特定し、教職員に拠出を呼びかけて物資提供を行いました。被災者救援緊急支援募金活動も開始し、学生団体による学外での募金活動も支援しました。

3. 大学（大学院、別科を含む）

（1）リベラルアーツ学群

- ①アドバイザー研修： 春学期オリエンテーションに先立ち、アドバイザーとなる教員が履修指導上知っておくべき項目を中心に FD を行いました。
- ②1・2 年生オリエンテーション： 1・2 年生向けオリエンテーションを春学期、秋学期とも開催しました。1 年生向けの春学期では学群の概要・履修の理解・時間割作成を中心に行い、歓迎のための昼食弁当を取り入れ、アドバイザー教員とアドバイザーが共に食事を取りました。秋学期に関しては専攻プログラムの理解を進めることを中心に行いました。2 年生春学期は専攻宣言まで行うべき事項を中心に説明し、秋学期は具体的な専攻宣言・専攻演習選択について説明しました。いずれのオリエンテーションとも資料を作成し、参加学生全員に配布しました。
- ③3 年生専攻オリエンテーション： 開催を希望する専攻プログラムについて、**Major** を宣言した学生が初めて顔合わせできる場として、春学期初めに専攻オリエンテーションを行いました。各プログラムの卒業要件や履修上の注意点について、教員が説明するとともに、同じ **Major** を選んだ学生や教員の紹介も行いました。
- ④FD 研究会： 教育の質の向上を目標とする研究会を 4 月（将来構想に関する審議および新任教員の歓迎会）、7 月（コースナンバリングについて）、9 月（LA セミナーに関する総括と議論）に、それぞれ開催し

ました。

- ⑤LA セミナーレポート集作成： LA セミナーの成果である、アカデミックな手法で執筆したレポートを、LA セミナーレポート集としてまとめることは、同科目の一つの目標として位置づけられています。教育効果向上に対して有効に機能すると考えられるため、2010年度は印刷製本のうえ、教員と学生に配布することを考えていましたが、諸処の事情により、従来と同様にサーバー上の公開としました。
- ⑥専攻演習紹介冊子作成： 各専攻演習に関して特徴及び内容の詳細を紹介することを目標に冊子を作成しました。学群固有の位置づけや履修方法があるので学群単独で作成しました。ゼミによって様々な紹介ページが作成され、学生にとって親しみやすい冊子になりつつあります。
- ⑦専攻演習合宿： 実施の有無は担当教員に任せられていますが、専攻演習によって宿泊を伴う合宿を行いました。通常の授業時間では実施できない丹念な論文指導やディスカッションだけでなく、教員と学生の親睦に役立っています。実施時期は様々ですが、夏季休業中が多く、開催場所としては伊豆高原クラブがよく使われています。
- ⑧履修モデル集作成： 各専攻プログラムの履修に関する条件は履修ガイドに全て記載されていますが、学生が履修する際により具体的な参考資料として、到達目標毎に各専攻プログラムの履修モデルを作成しました。1つの専攻プログラムで複数の履修モデルを用意し、2・3年生向けに配布しました。
- ⑨GO プログラム帰国生オリエンテーション： 2年次の春学期にGO プログラムに参加し、帰国した学生（135名）を対象にして、秋学期オリエンテーションを行いました。同プログラムに参加した学生は、他の学生とは履修状況が異なるので、注意点などを確認し、アドバイジングを行いました。
- ⑩ホームページ更新： 学群のホームページについて、随時、内容等を改訂・更新しました。
- ⑪高校生啓蒙活動： 昨年度に引き続き、高校生のための環境科学講座、サイエンスアゴラを東京国際交流館で実施しました。
- ⑫ゼミ大会運営： 経済学区分において例年実施しているゼミ大会を2010年度も11月に開催しました。30余のグループが参加し、優秀な発表を行ったゼミには賞が授与されました。
- ⑬専攻主催講演会： 専攻の学習の専門性を高めることを目標に、人類学専攻プログラムにおいて、外部講師による講演会を実施しました。
- ⑭2月教員研修会： 多摩アカデミーヒルズにおいて、1泊2日で教員研修のための合宿を行いました。進行中のカリキュラム改革が議論の中心になるとともに、指導や授業運営での工夫および問題解決方法等の情報を共有するための報告会も行いました。2011年度に就任する新任教員2名を含めて、1日目は111名の参加がありました（欠席5名）。
- ⑮教員研修・FDの記録集： 2010年度に学群で実施されたFD研究会

(3回)と教員研修会について、その記録を修正し、製本しました。本記録集の作成それ自体も、学群FD活動の一環として捉えています。

- ⑩ゼミ論集および卒論集の作成： 40名以上の専攻演習担当教員が、3年生のゼミ論および4年生の卒論について、それらを集成した論集を作成し、受講学生および卒業生に配布しました。

(2) ビジネスマネジメント学群

1) ビジネスマネジメント学群全体 (フライト・オペレーション除く)

- ①新入生オリエンテーション
- ②成績優秀者・資格取得者の表彰 (在学生)
 - *新入生オリエンテーション時に実施
- ③学群留学生と教員・日本人学生との交流会
 - *2010年度初めての試み：約80名参加
- ④観光産業実習企画 (カナダ等) とインターンシップ受け入れ開発の連動
 - *旅行会社2社
- ⑤ホスピタリティ桜美林会開催 (ホテル等の視察ツアーを含む)
 - *在学生と卒業生の交流および卒業生の研修を図るため2007年より毎年実施
- ⑥学群のリソースを活用した就職活動支援 (2010年度初めての取り組み)
 - *教員の出身業界ごとに就職活動を支援するためセミナーを開催
- ⑦専任教員研修会実施
 - *学群の教育理念実現のために教員は何をしなければいけないのか。
FDプロジェクトの立ち上げとガイダンス科目の学習効果測定について
- ⑧学群ホームページの定期更新
 - *入試・就職広報としての学群ホームページの活用
- ⑨地域との連携活動
 - *町田商工会議所主催女性座談会への学生の参加
 - *淵野辺商店街来訪者調査と報告 (ゼミ活動)

2) フライト・オペレーションコース (パイロット養成)

2010年度2年生から飛行訓練地をニュージーランドに変更しました。NMIT (Nelson Marlborough Institute of Technology)の学生として、ハミルトン国際空港内のCTC Aviation Training (NZ) Limited で実地訓練と専攻科目を履修します。

【フライト・オペレーションコース 学生の活動状況】

3年生 17名 《米国アリゾナ州》

◎17名全員が1月までにFAA (米国連邦航空局) の「事業用操縦士免

許」および「計器飛行証明」を取得。

◎2月より、J C A B（国土交通省航空局）の「事業用操縦士免許」に関する書き換え実技試験を受験。

◎4月より、J C A B（国土交通省航空局）の「計器飛行証明」に関する書き換え実技試験を受験予定。

2年生 17名

◎15名が渡航要件を満たし、9月にニュージーランドへ渡航。

◎2名は渡航要件に到達せず進路変更。

1年生 16名

◎全員が渡航要件を満たすべく事業用学科試験、航空無線試験、計器飛行学科試験、TOEFL®試験合格を目標に学習を進めています。

【フライト・オペレーションコース 教員の活動状況】

◎学生募集業務（高校訪問）

◎就職先開拓業務（企業訪問）

◎ニュージーランド事務室での学生カウンセリング業務

◎アリゾナ事務室での学生カウンセリング業務

◎J A Lとの強力支援事項等の調整

◎フィールドトリップ引率等（場所：J A L運行乗員訓練部、J A L整備場、東京地方気象台、J A L東京空港支店（航務）J A Lオペレーションセンター、東京航空交通管制部、調布飛行場等）

◎1年生および2年生への国家試験対策講座（事業用学科試験、航空無線試験、計器飛行学科試験）

◎1年生および2年生へのT O E F L®対策講座

(3) 健康福祉学群

2010年度に行われた健康福祉学群の主要な活動は、下記のとおりです。学生研究活動支援は、2010年度にはじめて取り組んだ活動であり、2011年度の学会立ち上げを目指しています。

1. 教員研修会（専任・非常勤合同）

2. インターンシップ講座

（社会福祉専修：アートセラピー、健康科学専修：教職支援等）

3. ガイドヘルパー講座（社会福祉専修）

4. 国家試験対策講座（社会福祉専修、精神保健福祉専修）

5. 保育専修基礎プログラム(年行事にあわせて活動および企画体験)

6. 健康福祉学群学生満足度調査(秋学期実施)

7. 学生研究活動支援(学会立ち上げ準備として10の研究会を立ち上げて活動開始)

8. キャリアシンポジウム(専門職についての卒業生による職業および就活の話題提供)
9. 学群 FD(年 2 回)
10. 各専修の実習支援

(4) 総合文化学群

総合文化学群は開設 6 年目ですが、2 年遅れて開設した映画専修が完成年度迎えて初の卒業生を送り出し、2010 年度をもって、演劇、音楽、造形デザイン、映画の 4 専修の教育環境が整ったこととなります。

①本物教育

各専修に共通のプログラムは教育上、観る・体験することが推奨される優れた公演、演奏会、展示会、映画などのチケットを学生に配布しました。その他、演劇専修では劇団をプルヌスホールでの公演に招聘し、本番の公演を見るだけでなく、その準備段階から舞台美術、照明、演出等の実際に触れる機会を持ちました。造形デザインでは見るだけでなく、工芸等の体験もさせました。また優れた美術作品から都市景観までが鑑賞の対象であり、都市圏以外に存在する数多くの美術館・寺院等を訪問しました。

②学習成果発表会

各専攻演習・卒業研究の公演や作品展示が積極的に行われました。

演劇専修はパフォーミングアーツ・インスティテュート主催の O.P.A.P.(Obirin Performing Arts Program) がこれにあたります。

音楽専修は毎年学内選抜演奏会を開催しており、2010 年度は特別プログラム「桜美林学園創立 90 周年記念桜美林大学春の音楽祭 (3/11)」が東京オペラシティで開催されました。

造形デザイン専修は学内で「卒業研究作品展」を開催しました。

映画専修は OBIRIN CINEMA COLLECTION 「卒業研究」上映会を学内外で開催しました。なおこのうちの作品の『裸足のドブネズミ』(監督: 矢萩求道) が、日本映画技術協会主催「第 29 回そつせい祭り」で「技術奨励賞 (3 位相当)」を受賞しました。

③地域社会貢献

学習成果を地域・近隣に還元し地域社会文化の振興に貢献しています。

音楽専修: 高校、施設、病院、地域公民館などでのコンサートや音楽交流会などアウトリーチ活動。教会での奉唱。本学キリスト教音楽研究所や生涯学習センターとの連携による公開講座・市民講座開催。

造形デザイン専修: 町田市民病院アートワークへの学生作品提供。町田市立国際版画美術館「ゆうゆう版画まつり」参加。相模原市主催「フォトシティさがみはら」写真展参加。伊豆高原アートフェスティバル参

加。

映画専修：さがまちコンソーシアム」の県・国民年金基金テレビ CF 制作活動への参加。相模原市主催「フォトシティさがみはら」映像制作への参加。また 3 年生ゾルジャーガルさん監督の『街の上、空の下』（撮影実習「制作 III」制作作品が、西東京市民映画祭の自主制作映画コンペティションにてシネマ倶楽部特別賞を受賞しました。作品に引き続いての受賞。

なお演劇専修も地域貢献活動が盛んですが、パフォーミングアーツ・インスティテュートの活動に含まれています。

④FD：

2010 年度は 3 回の FD を実施しました。

「FD、今何をすべきか」講演・分科会、「総文ハラスメント防止対策研修会」講演、「芸術系学生の就職を考える」講演

(5) 大学院

言語教育研究科では、国際交流基金との共同による基礎的学術研究プログラムが実施されました。大学アドミニストレーション研究科では、桜美林＝ユーロ・パートナーシッププロジェクト（O E P P）により、英語による正規科目が開発・提供され、オスロ大学の学生・教員とも交流がありました。心理学研究科健康心理学専攻では、ゼミ合宿を合同で開催しました。老年学研究科では、独自の公開講座を企画・運営しました。国際学研究科および老年学研究科の博士後期課程学位請求論文中間・最終試問は公開で開催されました。

2008 年 4 月にスタートした四谷キャンパスは 3 年目を迎え、4 研究科 5 専攻、また 2010 年 9 月より桜美林アカデミーも展開しています。老年学研究科、大学アドミニストレーション研究科、言語教育研究科、国際学研究科国際協力専攻の在籍学生数は、前期・修士課程が 107 名、後期課程が 16 名の計 143 名であり、この他に研究生 7 名、科目等履修生 9 名、聴講生 25 名を加え総計 184 名（休学 14 名を含む）となっています。8 月及び 1 月には、大学アドミニストレーション研究科通信教育課程（修士課程：大学アドミニストレーション専攻）のスクーリングが行われました。

(6) 総合研究機構

1) 研究組織

2010 年度は、研究員、客員研究員等、大学長が認める委嘱手続きについての整備を 2011 年度に向けて徹底するとともに、総合研究機構傘下の附置研究所および附置センターとして適切に運営がなされる様に、附置研究所および附置センターの運営規定の内規を実態化し具体化しました。また、育成型研究プロジェクトとして総合研究機構内にあった環境プロ

プロジェクト研究所が、新たに新設研究所(環境研究所)として独立しました。センター(桜美林大学・ダナン大学・パートナーシッププログラム)については、今後、日本＝ベトナム研究交流センター(仮称)として独立すべく育成の最終段階に入っています。附置センターに期待される「マネジメント」を考慮し、当初3年間は総合研究機構育成型プロジェクト研究所として位置づけ、当面、組織、運営、資金調達などで自律した研究所としてテイクオフできる準備を行っています。日本＝ベトナム研究交流センター(仮称)については、2012年度より独立した研究所となる予定です。新規では、国連アカデミックインパクト・プロジェクト研究所が2010年度の準備段階を経て、2011年度から立ち上がる予定です。

2) 研究環境

加齢発達研究所、言語教育研究所、健康心理・福祉研究所など、大学院生の育成プログラムを内包した活動を積極的に展開しています。また、附置センターでは、パフォーミングアーツ・インスティテュートや桜美林大学・ダナン大学・パートナーシッププログラムなど学部生の育成を視野に入れたプログラムの積極的な展開、臨床心理センターは大学院生の育成支援を本来の目的としています。その他、産業研究所、国際学研究所、高等教育研究所、キリスト教音楽研究所、環境プロジェクト研究所は学内教員相互の研究協力を基本としています。さらに、環境研究所、北東アジア総合研究所においては、主として社会貢献を念頭においた研究活動を展開しています。

3) 社会貢献

総合研究機構教育未来研究プロジェクトでは、稲城小学校英語活動支援研究プロジェクトを受託研究として担い、今後の小学校英語活動の在り方モデルの提示を行うとともに、稲城市教育プランの提唱を行いました。また、稲城市第四次長期総合計画立案の支援、稲城市教育委員会外部評価支援、西東京市教育委員会外部評価支援など多岐にわたる支援を行いました。その他、附置研究所(北東アジア総合研究所、国際学研究所、環境研究所、等)における一般市民に開かれたセミナー、シンポジウムの開催、附置センター(パフォーミング・アーツ・インスティテュート)における公演の開催などがあります。

(7) その他の教育研究活動

1) サービスラーニング・プログラム

栃木県西那須野にあるアジア学院(アジア農村指導者養成専門学校)、伊豆大島にある藤倉学園(精神障がい者入所更生施設)、東京八王子にある日本エコクラブ(NPO法人)、東京中野にある学生キリスト教友愛会(日本基督教団の青年組織)と連携しながら、人間形成と社会理解の深化を目的に掲げ、独自のサービスラーニングを実施してきました。

2) 有機農業を通して学ぶ持続可能な社会

学園の敷地内に有機農業を学ぶ畑を設け、学生有志のサークル活動を組織して、環境問題への取り組みと地域農業との連携を目的としたフィールド・プログラムを提供しています。

3) 教職課程

春・秋学期に学年ごとのオリエンテーションを行い、教育実習の事前・事後指導ならびに実習時の出張指導を行っています。また、卒業生教員と語る会を開催しています。

課程登録者数 : 2年 173名、3年 162名、4年生 168名
科目等履修生 15名 合計 503名

免許状取得者数 : 117名
(中学 110件、高校 125件、専修 0件)

4) 博物館学芸員課程

全学群にまたがる54名が学内外の「博物館実習」を受講しました。学内実習では少人数制に重点を置いて45プログラムを開講しました。学内実習では国内初、学芸員養成としても国内2例目となる全盲学生の教育に取り組み、バリアフリーに関する学内実習プログラムを新設しました。「桜美林資料展示室」では『展示室だより』を5号刊行し、利用者数は約700名でした。国内初の大学における博学連携として、町田市立博物館の出張展示を開催し、館務実習と学内実習を連携させました。また、東京国立博物館キャンパスメンバーズと国立科学博物館パートナーシップの制度に加入し、学生の博物館利用の利便性（無料入館）が高まりました。

5) アカウンタビリティ等

「点検・評価の実施」に向けて自己点検評価委員会を数度開催し、次年度にむけた認証評価を受審するための準備を進めました。また、『桜美林大学 Fact Book 2010』を発行しました

教員の履歴や業績を記録・保存するデータベースが構築され、ウェブ上での登録が可能となりました。学位の公開比率は78.4%で、業績の公開比率は80.1%となっています。

6) オープンカレッジ・公開講座等

オープンカレッジを町田・PFC・四谷・多摩アカデミーヒルズの各キャンパスで実施し、科目等履修生・聴講生の受入も行われました。桜美林アカデミーはキャンパスの移転に伴い、その拠点を新宿から四谷に移しました。

*町田キャンパス

オープンカレッジ（公開講座）

- ①語学講座
- ②文化・教養講座
- ③資格・スキルアップ講座

語学関連の団体試験会場の運営

- ①TOEIC®
- ②TOEFL®
- ③英検

春学期	受講者数	1,206名	講座数	150
秋学期	受講者数	1,215名	講座数	162

*四谷キャンパス

桜美林大学アカデミー

春学期(新宿キャンパス)

- ① スキルを磨く、可能性を広げる
- ② 健やかな心と身体を手に入れる
- ③ 外国語を学ぶ、異文化を体験する

40講座 総受講者数 272名

特に①の「イベント検定」講座は国内の大学で初の講座となった。
(受講生 22名)

秋学期(四谷キャンパス)

- ① 特別講座
- ② 食育&健康心理講座
- ③ 教養文化講座
- ④ ビジネス&スキル講座

26講座 総受講者 281名

特に①特別講座は 5 講座を企画、107 名の受講者があり、四谷地区における桜美林大学アカデミーの認知度を高める活動となりました。

*多摩アカデミーヒルズ

エクステンションプログラム

- ①語学
- ②音楽、芸術
- ③スポーツ
- ④教養
- ⑤特別短期講座

60講座 総受講者数 8,974名

7) 教員免許状更新講習

eラーニングによる教員免許状更新講習として、「幼・小学校教員コース」、「中・高等学校教員コース」にそれぞれ教材を用意し、全国の幼稚園、小学校、中学校、高等学校教員に受講を呼びかけました（文科省のホームページ、桜美林大学教員免許状更新講習センターホームページにより）。文部科学省初等中等教育局職員も見学にきています。

本学のeラーニングによる講習は、他大学が開講していない時期に受け入れ可能であることや、講義・試験とも年間を通して自宅でいつでも自由な時間に受講・受験が可能なるものであることが年度の後半から全国的に周知され、受講者数が伸びました。

受講者数 1,105 名（述べ 3,537 名）

8) 不登校支援

町田市教育委員会との協力により、桜美林大学の「基盤教育院ワールドスタディーズ」の「地域社会参加」の科目として「不登校学習支援」の授業を春学期（2単位）、秋学期（2単位）実施しました（町田市からの補助は 3,094,350 円）。

授業は、町田市の小・中学校の不登校児童・生徒約 300 名を対象に、eラーニングによる学習教材を提供し（ポータルサイト：<http://create.to-net.ne.jp/> 参照）、学習内容についての質問を本学学生が仮の担任となって回答する形をとっています。

年間 4～5 回の不登校児童・生徒の保護者対象の説明会を実施し、不登校児童・生徒とは「ふれあいの日」を土曜に開催してお菓子や料理を作りながら交流を深める活動も行いました。

9) eラーニング（“さくら～にんぐ”）

平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】」の採択（平成 22 年度は 21,000,000 円の補助金）により、eラーニングによる「層の厚い学士力醸成のための自修システム」（“さくら～にんぐ”）を構築し、入学前に学んできた学習を学び直すための「リメディアル学習」と、大学の教室外の学習を行って単位制度の実質化を行うための「プラス学習」の教材を作成、配信しました。「リメディアル学習」については全在生を対象に、高校生レベルの講義教材として、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「数学ⅠA」、「数学ⅡB」、「物理」を提供し、小・中学校レベルの教材として、小・中学校のドリル教材を提供しました。

また、新入生に対しても、入学前に基礎固めができるように、“さくら～にんぐ”を周知しました。

10) 外国語教育

大学では 18 の外国語科目をレベル別に提供していますが、上級レベルの受講者数が減少しています。公的試験については、英語はプ

プログラムの前後に TOEIC®を活用していますが、他の外国語については利用しているもののカリキュラムに十分な形で組み入れるよう改善に取り組んでいます。

また、プレースメントテストとして、入学前の英語クラス分けや入学後の実力を測るための CASEC テスト（Web を使った英語の試験）を実施しています。

1 1) 英語による学位取得コースの開設

現状では開設されていませんが、外国語教授経験者にアンケートをとるなど検討しています。DD（ダブルディグリー）プログラムについては、サンフランシスコ州立大学および天津外国語大学との間で提携しており、他に 4 大学と協議を継続しています。

1 2) 留学生受け入れプログラム

RJ/考察日本プログラム、夏期日本語セミナー（明知大学）、OEPP（桜美林ユーロパートナーシッププロジェクト）、OEPP 派遣教職員受け入れ、オベリン大学からの職教員受入、提携校からの客員教授受入がありました。9 月に国際寮（定員 245 名）が竣工し、受け入れ時の住環境が整備され、短期・長期留学生および日本人学生のあらたな交流の場となりました。

1 3) 留学生派遣プログラム

大学では JYA・SYA 長期留学プログラムにより 10 カ国に 51 名が海外留学し、2007 年度から始まった「GO（グローバルアウトリーチ）プログラム」では 8 カ国に 279 名が海外留学しました。この他、フライト・オペレーションコースで米国とニュージーランドに、エアライン・ホスピタリティコースでカナダにも海外留学しています。短期プログラムにおいてはフィリピン国際協力研修プログラムをはじめとする 33 プログラムに 225 名が参加しました。

1 4) 留学生との交流

大学のインターナショナルキャンプ（231 名参加）、バディプログラム（RJ および考察日本学生へのアシスト）、日本語クラスへの日本人ゲスト受入などが実施されました。

1 5) 地域貢献

町田市教育委員会学校支援センターとの連携事業による「忠生第一小学校・太陽観察」、「小山小学校・なわとび講座」をはじめとして、相原地区自治会連合会、町田警察署、町田消防署、町田市観光コンベンション協会、町田市障がい福祉課、町田精神保健福祉推進会、町田商工会議所、町田青年会議所、JAXA などとの連携がありました。刈野辺駅周辺活性化プロジェクトにおいては、健康福祉

学群とビジネスマネジメント学群のゼミや研究会が参加し、また津野辺銀河まつりには大学が共催し、学生ボランティアの派遣や会場提供を行っています。また、スポーツ健康科学センターは健康福祉に関する学群での学びを社会に還元するものとして、学生が町田市、相模原市の福祉施設、世田谷区の事業等でボランティア活動を継続して行い、また教員による社会への研究成果の還元として、光が丘わが町フェスタ、境川クリーンアップ作戦、昭島市健康フェスティバル、町田市いきいき健康フェア、新潟県新発田市健康づくり大学、忠生地区「わいわい健康づくり」、相模原市「あじさい大学（健康教室）」、相模原市相武台健康づくりフェスタ、町田市消費者健康フェア、新潟県新発田市紫雲寺健康フェア、相模原市「さくらまつり」、稲城市1Cカレッジ、鹿児島県枕崎市市民生涯フェスティバルなどでの活動を行いました。

16) 学生のボランティア活動

毎年恒例となった境川クリーンアップ作戦には約 850 名の学生・教職員が参加しました。

(8) 健康管理体制

大学では 2 名の看護師（専任）、パート 2 名、学校医（内科、産業医兼任、非常勤週 1 回）1 名に、産業医（精神科医、非常勤月 1 回）1 名が加わった体制となりました。AED はキャンパス内に 15 台設置されています。

(9) 奨学金制度

大学では成績優秀者および経済的困窮者を対象に給付・貸与の奨学金制度があり、国費外国人留学生の受け入れも行っています。学外奨学金（給付）もあり、日本学生支援機構奨学金の手続きも行っています。受給状況（大学院を含む）は以下の通りです。

- ① 学内給付 116 名 90,545,000 円
 - ② 学内貸与 3 名 3,812,000 円
 - ③ 国費外国人留学生 32 名 40,223,000 円
 - ④ 学外給付 5 名 4,380,000 円
 - ⑤ 日本学生支援機構給付（留学生） 56 名 31,776,000 円※
 - ⑥ 日本学生支援機構貸与 2,791 名 2,267,486,000 円※
- 総計 3,003 名 2,438,222,000 円

※震災の影響により日本学生支援機構の 2010 年度支給分が確定していないため、2009 年度の支給実績（参考）。

(10) キャリア開発支援

キャリアアドバイザー 16 名を配置し、就職活動の個別支援体制を整えてきめ細かいサポートを行っています。この取り組みの結果、新卒

向け求人倍率が 2009 年度の 1.62 倍から 1.28 倍に低下している中、内定率は 91.1%となり約 10%改善されました。授業として開講されているキャリアデザインプログラムには延べ 2,154 名の受講がありました。学内合同企業説明（面談）会には過去 5 年間で最も多い延べ 332 社の参加がありました。SPI 対策、自己判断テスト、業種別説明会などの進路ガイダンス・セミナーは 160 回と回数を増やしたものの参加者数は延べ 11,435 名と約 2 千名の減少でした。企業・病院・公的機関等へのインターンシップ（160 名参加）や教育委員会と連携した教育ボランティア（65 名参加）は研修目的を含め、前年とほぼ同数の参加者数でした。

なお、卒業者数 1,879 人のうち進学者数は 125 人、また就職希望者数 1,375 人のうち内定者数は 1,252 人でした。

* 1 卒業者には春学期卒業者および 3 年次早期卒業者を含みます。

* 2 進学先は、大学院（学内外）、海外留学（大学等）、専門学校、その他です。

（11）図書館

学生・教職員等への教育・研究支援

1) 図書館資料の提供

資料貸出・返却、ILL 図書館間相互貸借（国立情報学研究所の NACSIS-ILL システムを利用した書誌検索、複写/貸借の依頼・受付等の相互利用業務）

①P.28～P.30 の資料について、震災後は図書館を休館したので、数字はいずれも前年度より減少しています。2 月末の前年度との比較では入館者数は増加し、貸出人数・冊数は僅かに減少しています。

②貸出可能な紙ベースの図書のみならず、今日では電子書籍、フルテキストで見られるオンラインデータベース等資料の多様化が、貸出人数・冊数の減少と関係があると思われます。

③学生一人当たり貸出冊数は多い順に、大学院（町田・四谷）27 冊（27 冊）、リベラルアーツ学群 7 冊（8 冊）、国際学部 7 冊（16 冊）、総合文化学群 6 冊（4 冊）です。震災後休館がなければどの学群も伸びたと思われます。特筆すべきは、総合文化学群の利用です。

（ ）： 2009 年度学生一人当たり貸出冊数

2) 利用指導・事項調査（レファレンス）

前年度比で内容別で 26.7%、利用者別で 23.7%増加しています。内容的には、利用案内・指導が増加し、事項調査は僅かに減少しています。

3) 情報検索ガイダンス

図書館資料の中でも特にオンラインデータベースは、使いこなすには総合的な理解が必要です。リベラルアーツ学群、ビジネスマネジメント学群ではこの情報検索ガイダンスの必要性を感じ、特にリベラルアーツ学群では、学群創設時から初年次教育の中に採り入れています。また、基盤教育院では、授業の中にガイダンスを組み入れた取り組みが行われています。

4) 学生の主体的読書に対する支援 『読書運動プロジェクト』

学生・教員・生協・図書館四者による読書運動活動。図書館には来館しない学生にも“読書”に触れてもらうような仕組みを学生が発案し、自律的な活動となるよう教員・図書館・生協が支援をし、見守っているものです。今年度は一般学生の読後コメントが目標の1,000枚を上回りました。この読書運動は12月22日の『読売新聞』朝刊（多摩地方版）の記事（タイトル「キャンパスは読書一色」）として取り上げられました。

(1-1) 2010年度図書館利用状況(キャンパス別)

	学生数	入館者数			貸出人数			貸出冊数		
	2010/5/1	町田	四谷	計	町田	四谷	計	町田	四谷	計
① 総合文化学群	1,143	11,631	3	11,634	2,957	0	2,957	6,430	0	6,430
② 健康福祉学群	966	12,070	8	12,078	1,481	0	1,481	2,858	0	2,858
③ ビジネスマネジメント学群	1,945	15,574	4	15,578	2,697	0	2,697	5,879	0	5,879
④ リベラルアーツ学群	4,404	59,463	70	59,533	14,458	3	14,461	32,691	3	32,694
⑤ 大学院	421	7,099	11,745	18,844	2,769	1,483	4,252	8,071	3,365	11,436
⑥ 教職員		4,830	582	5,412	2,948	67	3,015	7,839	107	7,946
⑦ 学群・大学院・教職員以外	181	10,928	1,367	12,295	2,810	167	2,977	6,300	351	6,651
⑦の内訳										
1 文学部	88	594	0	594	101	0	101	245	0	245
2 経済学部	37	184	0	184	14	0	14	36	0	36
3 国際学部	47	396	0	396	122	0	122	324	0	324
4 経営政策学部	9	11	0	11	2	0	2	5	0	5
5 聴講生、科目等履修生他		9,743	1,367	11,110	2,571	167	2,738	5,690	351	6,041
⑧ 合計:①～⑦	9,060	121,595	13,779	135,374	30,120	1,720	31,840	70,068	3,826	73,894

町田には情報メディア室を含む

⑤ 通信教育課程含む

⑦-5 聴講生、科目等履修生、日本語別科、孔子学院、オープンカレッジ受講生、地域開放など

(1-2) ILL 図書館間相互貸借

		年度	件数
①	文献複写受付	2010	961
	(他大学等から桜美林へ)	(参考)2009	1,063
②	文献複写依頼	2010	2,673
	(桜美林から他大学等へ)	(参考)2009	2,841
③	資料貸借受付	2010	175
	(他大学等から桜美林へ)	(参考)2009	173
④	資料貸借依頼	2010	187
	(桜美林から他大学等へ)	(参考)2009	169

(2) 図書館レファレンス状況(本館・メディア・四谷全体)

A. 内容別		年度		
		2010	2009	2008
①	利用案内	1,511	1,058	742
②	利用指導	861	693	457
③	所蔵調査	524	432	315
④	事項調査	32	34	22
⑤	その他	181	237	106
⑥	合計	3,109	2,454	1,642

B. 利用者別		年度		
		2010	2009	2008
①	学部学生	1,100	1,064	756
②	大学院生	72	85	92
③	教員	138	128	123
④	職員	21	14	14
⑤	学外者	82	76	33
⑥	不明・未記入	1,406	918	120
⑦	合計	2,819	2,285	1,138

※ 四谷キャンパス図書室では、利用者別の記録をつけていないため、「A. 内容別」と「B. 利用者別」では、件数が異なります。
 ※ 2010年度は、本館1階のレファレンスカウンターでのレファレンス対応はなくなりました。

(3) 図書館ガイダンス実施状況

内容別		年度	
		2010	2009
①	図書館ガイダンス	リベラルアーツ学群 67クラス 約970名参加	リベラルアーツ学群 72クラス 約1,000名参加
		ビジネスマネジメント学群 27クラス 約460名参加	ビジネスマネジメント学群 27クラス 約420名参加
②	情報検索ガイダンス	11クラス 約175名参加	19クラス 約300名参加
③	ツアーガイダンス	1クラス 約15名参加	3クラス 約50名参加
④	基盤教育院の基盤教育科目との連携授業	5クラスで計9回実施	4クラスで計6回実施

(12) 広報

重点施策として、ニュースリリース発信頻度アップ、ホームページ上のNEWS&TOPICS 掲出増加、記者懇談会の実施や媒体広告・交通看板などの内容見直しを実施しました。また、アドミッションセンターとの連携強化を図りました。

『OBIRINER』は「読まれる広報誌・紙、読ませる広報誌・紙」を目指してリニューアルしました。

『OBIRINER』

9月：53,000部、3月：53,000部

『OBIRINER PLUS』

9月：12,000部、11月：40,500部、1月：13,000部

(13) 学生募集

少子化・全入時代の流れ、また受験校を絞り込んで確実に合格する大学を狙う動きが続く中、志願者数は総じて減少傾向、また入学手続き率は上昇傾向となりました。受験生、保護者や高校教員との接点となるオープンキャンパスは6、7、8、10月に全7回、ミニ・オープンキャンパスは4～6月の毎週土曜日に実施し、進学相談会や説明会には全国（関東、新潟、静岡、沖縄などの重点地域）の240会場（高校会場を含む）への参加となりました。

また、指定校に対する計画的訪問を実施する体制をあらためて組み、3期に分けて指定校および志願者数の多い高校への訪問を実施しました。具体的には第1期は76校（指定校のみ）、第2期は52校（非指定校で志願者数の多い高校）、第3期は61校（東京・神奈川で第1期・2期以外の高校）を訪問しました。

大学院については、町田キャンパスおよび四谷キャンパスにおいて、

4、7、10、11月に全4回、説明会を実施しました。

入試については、9月入学者選抜は6月から8月にかけて行われ、4月入学者選抜は9月から3月にかけて様々な選抜が断続的に行われています。今年度は、あらたに特別奨学生（学士課程）入学者選抜（入学時から最大で4年間の「授業料」相当額を給付）をAO選抜第1回と同時期に実施しました。沖縄県（那覇市）、福岡県（福岡市）、愛知県（名古屋市）、北海道（札幌市）の地区会場ではAO選抜、指定校推薦入学者選抜を行いました。

2011年度入試結果 学士課程

2011年4月入学		リベラルアーツ学群	ビジネスマネジメント学群	健康福祉学群	総合文化学群	合計
AO入学者選抜 (特別奨学生入学者選抜を含む)	募集定員	342	140	72	116	670
	志願者数	806	367	268	228	1,669
	合格者数	424	186	117	126	853
	入学者数	409	178	113	122	822
推薦入学者選抜	募集定員	266	100	56	50	472
	志願者数	370	151	96	49	666
	合格者数	358	147	77	37	619
	入学者数	357	145	74	36	612
社会人入学者特別選抜	募集定員	(一般入学者選抜を含む)				
	志願者数	2	1	1	1	5
	合格者数	1	1	1	0	3
	入学者数	0	0	1	0	1
留学生入学者特別選抜	募集定員	(一般入学者選抜を含む)				
	志願者数	41	59	8	2	110
	合格者数	31	38	7	2	78
	入学者数	21	31	5	2	59
一般入学者選抜	募集定員	247	98	52	59	456
	志願者数	1,898	814	475	235	3,422
	合格者数	606	291	122	121	1,140
	入学者数	217	118	42	61	438
センター試験利用入学者選抜	募集定員	95	62	20	25	202
	志願者数	1,290	535	283	147	2,255
	合格者数	609	256	90	85	1,040
	入学者数	124	62	14	41	241
総合計	募集定員	950	400	200	250	1,800
	志願者数	4,407	1,927	1,131	662	8,127
	合格者数	2,029	919	414	371	3,733
	入学者数	1,128	534	249	262	2,173

2010年9月入学		リベラルアーツ学群	ビジネスマネジメント学群	健康福祉学群	総合文化学群	合計
	募集定員	若干名				
AO入学者選抜	志願者数	3	2	1	3	9
	合格者数	2	1	0	1	4
	入学者数	1	1	0	1	3
社会人入学者特別選抜	志願者数	0	0	0	0	0
	合格者数	0	0	0	0	0
	入学者数	0	0	0	0	0
留学生入学者特別選抜	志願者数	0	1	0	1	2
	合格者数	0	1	0	0	1
	入学者数	0	1	0	0	1
留学生別科入学者選抜	志願者数	1	14	1	—	16
	合格者数	0	10	0	—	10
	入学者数	0	9	0	—	9
海外提携校入学者選抜	志願者数	1	—	—	1	2
	合格者数	1	—	—	1	2
	入学者数	1	—	—	1	2
総合計	志願者数	5	17	2	5	29
	合格者数	3	12	0	2	17
	入学者数	2	11	0	2	15

2011年度入試結果
博士前期課程・修士課程

2011年4月入学		国際学	経営学	言語教育	心理学	大学アドミニストレーション	老年学	合計
9月、12月、2月入試	募集定員	20	30	40	30	60	20	200
	志願者数	16	23	33	50	22	16	160
	合格者数	14	17	24	21	20	14	110
	入学者数	11	14	22	18	19	14	98

2010年9月入学		国際学	経営学	言語教育	心理学	大学アドミニストレーション	老年学	合計
3月中国現地、7月入試	募集定員	若干名						
	志願者数	1	15	8	2	6	3	35
	合格者数	1	11	3	2	6	3	26
	入学者数	1	11	3	2	6	3	26

博士後期課程

2011年4月入学		国際学	老年学	合計
9月、1 2月、2 月入試	募集定員	10	3	13
	志願者数	8	6	14
	合格者数	4	4	8
	入学者数	4	4	8

2010年9月入学		国際学	老年学	合計
7月入試	募集定員	若干名		
	志願者数	3	2	5
	合格者数	2	1	3
	入学者数	2	1	3

(14) 高大連携

2001年度から進めてきた高大連携の提携校は48校となり、年2回の連絡会議の他、高校生の科目等履修生として大学授業履修(授業料免除、本学に入学後単位認定)、提携高校教員による入学前教育資料(高大接続学習教材)の作成と一般入試過去問題の分析などを通して連携を深めています。高大連携による科目等履修者数は春学期16名、秋学期10名でした。

高大連携による諸活動の一環としてアドミッションセンターでは、AO・推薦入学者選抜での入学予定者を対象に、高校での基礎的学習内容の再確認のために、英語・国語・数学のテストを「入学前教育プログラム」として実施しました。同プログラムの受験者数は1,301名でした。前年度までの高校生自身による自己採点結果報告方式を改め、今回は指定のマークシートを解答用紙として用い、採点を含めた実施方法を変更しました。各入学者の科目別得点状況はもちろん、問題ごとの正答率なども把握できるため、入学者の評定平均値や入学後の成績など他のデータとの比較対照により、本学に入学する学生の基礎学力動向なども把握することが可能になるものと期待されます。

また基盤教育院が実施するブリッジ・カレッジは、高校生活と大学生生活の橋渡しをするためのプログラムで、AO・推薦・留学生・社会人選抜の入学予定者を対象にしています。参加した416名は2日間で大学での学びを一足早く体験することができました。

(15) 科学研究費補助金

新規申請37件のうち11件が採択され、採択率が30%となりました。また、外部からの受託研究は3件でした。

- ・科学研究費補助金

文部科学省	6件	31百万円
日本学術振興会	24件	47百万円
- ・受託研究費

	3件	6百万円
--	----	------

(16) 国際寮

あらたな寮が9月に完成し、交換留学生を中心に先行して68名が入居しました。2011年4月からの本格的な運用に向け、連絡調整会議等で準備を進めました。

(17) 多摩アカデミーヒルズ

2010年5月1日より教育研究施設として運営を開始しました。

(目的)

- ・本学の国際的交流の拠点となりうること
- ・地域にある大学間連携事業の拠点となりうること
- ・地域文化振興の拠点となりうること
- ・教育研究環境の充実に資すること

(事業)

- ・集会事業(研修センター事業)→本学の学生教職員用のみならず、国内、海外の大学間交流の中心的機能として活用(2010年度→138件 利用者数→9,457名)
- ・宿泊事業(研修センター事業)→ゼミ、スポーツ合宿、国際シンポジウム等の開催における宿泊施設として活用(2010年度→利用者数5,120名)
- ・体育事業(スポーツ事業)→不足する学校施設の増強及び地域住民の健康増進に貢献する施設として活用(2010年度→利用者数14,497名)
- ・カルチャー事業(エクステンション事業)→地域住民の文化向上及び地域住民三世代交流の場所としての活用(2010年度→利用者数8,974名)

学校行事及び地域貢献の事例

- ・モンゴル高校生との交流
- ・韓国留学生の研修及び交流
- ・日韓シンポジウム
- ・日中シンポジウム
- ・海外大学関係者とのミーティング
- ・多摩市と本学との連携にかかわる基本協定締結
- ・近隣大学(明星、大妻女子、恵泉女学園、中央、帝京、国士館、多摩、多摩美術、首都大学東京)との連携(多摩市関連大学学長意見交換会の開催など)

(18) その他

1) 保護者懇談会

5月から11月にかけて、全国20会場で実施し、延べ参加者数は318名でした。また、町田キャンパスにおいて保護者フェアを3回開催し、

404名の参加がありました。

2) ホームカミングデー

大学の卒業生を対象にホームカミングデーを初めて開催し、申込は約600名でしたが台風の影響で約250名の参加者数となりました。

(19) 孔子学院

1) 中国語特別課程

桜美林大学別科。1年間で中国語の基本を身に付けさせ、修了後、希望者には進学先を用意しています。(同済大学、桜美林大学)

2010年度入学者は18名。

2) 中国語・中国文化公開講座

春学期と秋学期に一般むけに開講している中国語および中国文化の講座。主にPFCで開講。夏休み、春休み期間中には、1日集中講座などのフォローアップ講座を開講しています。

2010年度受講生は延べ約600名。

3) 企業向け中国語研修

企業むけに行っている中国語のオーダーメイドプログラム。

2010年度は3社において実施。

4) 中国語教員研修

中国語の教員を対象にした研修プログラム。2010年度は主に教員団体に講師を派遣しました。また、海外大学教員を招いた講演会を3回実施しました。(スタンフォード大学から1名、北京大学から1名、同済大学から1名)

5) 中国語教員の日本語研修プログラム

孔子学院本部の要請による中国語教員(もしくは将来の教員)12名を受け入れ、日本語研修を行いました。学費、寮費等は孔子学院本部が負担。

6) 中国短期留学

夏休み期間中などに実施している派遣プログラム。2010年度は8月に4週間および9日間コースを実施。

7) 地域支援

主に東京、神奈川エリアの日中友好団体などと協力して中国語講座などを開講しており、2010年度は海老名市において実施しました。

8) 文化交流イベント

中国語もしくは中国文化に触れる機会を提供する目的で実施しています。2010年度は、全日本青少年中国語カラオケ大会、中国語広場、春節を祝う会、芸術講演会などを実施。

9) 研究活動

中国語教育の向上のための研究活動を行っています。学術座談会、言語学者インタビュー、研究誌の編集・創刊を行いました。加えて2010年には、中国語教育学会の全国大会が桜美林大学で開催されたこともあり、運営を担当しました。

10) 対外連携

中国国家漢弁/孔子学院本部（日中対訳冊子「孔子学院」編集制作など）、中華人民共和国駐日本国大使館（「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト等）、日本孔子学院協議会（会議、共同事業の実施など）など。

(20) 日本言語文化学院

① 学生募集・受入関係

- ・書類審査の強化、本国での卒業校の成績の精査、日本語公的試験結果、電話面接を確実に実施し、学生の質の確保が本格化してきました。
- ・中国語の留学生別科のパンフレットの発行、中国政府教育部関係のホームページへの広告掲載により、中国語圏への広報の更なる強化を図りました。
- ・留学フェア、中国国内の大学・日本語学校での説明会など現地募集活動を強化しました。
- ・全世界に発行される日本語能力試験の冊子に広告を掲載しました。
- ・大連外国語大学との本学大学院進学を目的とする一貫教育プログラムが実施され、2期生の全員が大学院合格を果たしました。
- ・提携校の他、中国の他の大学等の教育機関に積極的に訪問し、大連外国語大学とのプログラムに続くような、教育プログラムの立ち上げを進めました。

② 教育関係

- ・春学期は7レベル9クラス、秋学期は7レベル8クラスでクラスを編成しました。中級レベルのクラスを増設することによって、学生のレベル差により細かく対応することができました。
- ・教育内容の見直しに向けて、研究プロジェクトを立ち上げました。2010年度末に現状把握、課題の提案を行い、2011年度以降のプロジェクト進行に向けての計画を立てました。
- ・日本語スピーチコンテストを引き続き開催し、別科生だけでなく、全留学生(大学院生を除く)にまで対象を広げ、学外からの見学者も参加

し、さらに充実した開催ができました。内容、パフォーマンスともレベルの高いものになりました。

③ 学生管理

- ・ 新生の入国時の出迎え、住居探し補助、役所手続補助などスケジュールを効率化させるだけでなく、突発的な予定変更等にも対応できるよう努めました。
- ・ 生活全般、出席、進路等、教員だけでなく事務職員からも授業外の時間にも個別に指導し、学生一人一人に対し生活指導を実施しました。

④ 進学関係

- ・ 学内進学は推薦入試、一般入試を含め、学群および大学院への進学者が増加しました。2010年4月入学者26名(学群14名、大学院12名)、同9月入学者18名(学群15名、大学院3名)。

付表【2010年度募集と進学状況】

	募集人員	出願者	合格者	入学者	進学者
春学期	60	80	44	41	52
秋学期	60	66	61	54※	71
合計	120	146	105	95	123

※大連外国語大学プログラム10名を含む

4. 中学校・高等学校

(1) キリスト教教育

- ・ 毎週1回のチャペル礼拝では、チャプレンを始め、校長、教頭からの奨励ばかりでなく、学外からも多くの牧師、教員を招き、充実した学校礼拝を行いました。礼拝で語られる奨励が生徒の心に届いていることが、生徒が感想を記す礼拝ノートからも伺うことができました。毎回、生徒の感想が記された礼拝ノートには教員からコメントが書き添えられ、生徒への励ましとなっています。学年礼拝の司会を教員が持ち回りで務め、信者、未信者を問わずキリスト教教育に全教員が参与する環境が整いつつあります。
- ・ 入学式、卒業式等の式典を礼拝形式で行ない、創立記念礼拝、クリスマスなど特別の礼拝時間を設定して実施しました。また、イースター、収穫感謝礼拝等、折に触れて学校行事として取り組んだプログラムもあります。
- ・ 聖書に親しむ会、讃美歌を歌う会、教育講演会、父親の会を通じて、保護者に対してキリスト教に親しみを持つ機会をつくり、教職員と保護者が子育てについて共に学び、考える時間をもちました。

(2) 教科教育

- ・ 「これからの桜美林中高の目指す教育」と題して、夏期教員研修会を行いました。「建学の精神」、「中高一貫教育」をテーマに話し合いがなされ、

2012 年度から始まるカリキュラムに備えて共通の認識を持つところとなりました。

- ・ 生徒自身にとって、適性、興味、関心のある学部・学科を考える第一歩として捉えると共に、大学で学ぶことの面白さ、楽しさに気づかせることをねらいとして、大学教員から直接、授業を受け、生徒にとっては大学で学ぶ意味について考える機会を得ることができました。高校 2 年生を対象に行われ、桜美林大学をはじめ多くの大学の教員に協力をいただきました。
- ・ 夏期研修会で協議した結果を受けて、2012 年度からのカリキュラム変更を討議、2011 年度からの移行措置用カリキュラムを含めて決定しました。
- ・ 保護者、卒業生に呼びかけ、講師を依頼し、中学生を対象に、職業観について考え、また、自分の適正や職業への志向を模索するきっかけをつくるためにキャリアガイダンスを実施しました。
- ・ 英語科の教科カリキュラムを全面改訂し、2011 年度から中学 1 年生は新しい教材を利用することとしました。また、今年度も第 2 外国語として中国語、コリア語の講座を開きました。中国語は 67 名、コリア語は 28 名の受講者がありました。

(3) 国際交流

- ・ ニュージーランド・セントケビンズ校、オーストラリア・エマニュエル校と英語圏への海外短期留学プログラムを夏期・春期休業中に行いました。また、韓国・細花高校へ文化交流を中心とした短期プログラムを夏期休業中に行いました。
- ・ 韓国・細花高校、中国・上海外語大付属校から生徒を招き、短期受入プログラムを行い、授業に参加するとともに、高校 1 年生を対象にクラス交流を行いました。貴重な異文化の体験となりました。
- ・ AFS からの派遣留学生をインドネシアから 1 年間受け入れました。学習、諸活動に前向きに取り組む留学生の姿勢は他の生徒に良き感化を与えました。また、ムスリムとしての宗教・文化交流は、生徒にとって、異文化を体験する良い機会でした。
- ・ 国内で英語を使用する生活体験として、外国人教員、桜美林大学の留学生と共にイングリッシュキャンプを御殿場・東山荘にて夏季休業中に実施しました。

(4) 奨学金事業

- ・ 経済不況の影響で奨学金申請が増えました。

学内奨学金	中学 3 名	902,000 円
	高校 3 名	740,800 円

学外奨学金

東京都私学財団（貸与）	4 名	1,560,000 円
神奈川県教育委員会（貸与）	14 名	6,720,000 円
川崎市教育委員会（支給）	2 名	228,000 円
東京都私学財団授業料軽減助成（支給）	76 名	8,274,400 円

大学入学後の予約申請者（日本学生支援機構） 17名

- ・ 学力優秀者に奨学金を支給しました
中学 2名 918,000円 高校 6名 1,912,800円

(5) 募集対策

- ・ 中学入試の回数を増やし受験者数を増やしました。3年前の2009年度中学入学生入試から2月1日に午後入試を導入するとともに、PFCでも受験することが出来るように便宜を図り、2011年度入試は、さらに2月2日にも午後入試を導入しました。今年度は、多摩アカデミーヒルズでも受験が出来るようにし、多くの受験生を集めました。しかし、PFCなど中学校舎以外を受験会場とすることについては再考することにしてあります。
- ・ 高校入試では受験方法を改革し、昨年に比して多くの受験生を集めることが出来ましたが、第2希望の併願者が多くありました。また、桜美林中学からの入学生が例年に比して少なかったものの、定員をほぼ充足しました。しかし、高校入試は、多くの受験生を集めるために2012年度以降さらに改革を進める必要があります。
- ・ 学内だけでなく学外で開かれる多くの学校説明会に参加しました。また、教職員全員が協力して、進学塾や公立中学校を訪問し、広報に努めました。

(6) 危機管理

- ・ 東日本大震災の折には、200人弱の生徒が帰宅不能になり校舎に宿泊しました。その後の計画停電による鉄道の運転状況による混乱を考慮して、震災後の諸活動を停止し、終業式や部活動等の諸活動を春休み終了まで中止しました。また、中学の卒業式も中止しましたが、4月に入ってあらためて卒業証書授与を行いました。また、大震災を経験し、従来の防災対策の見直しを開始し、防災に対応する新たな対応策を検討中です。
- ・ インターネットを利用したメール等が普及するにつれ誹謗中傷等諸問題から生徒、学校を守るために、ネット対策を導入しました。

(7) キャンパス整備

- ・ 震災を経験し、老朽化した大志館の取り壊し改築の優先度を再確認し、生徒の安全確保を第一位とした耐震化計画を進めていくこととしました。
- ・ 新大志館内装整備計画で、トイレの整備を行いました。
- ・ アナログ放送の中止に備えて、各教室の放送設備のデジタル化を行いました。

※ 2011年度高校・中学 入試状況

	高校				中学
	推薦	一般	桜美林中	合計	
志願者	45	429	152	626	2517
合格者	45	385	152	582	551
入学者	45	118	152	315	171

※ 2010年度中学卒業生進路状況

	人数
桜美林高校進学	152
他校進学	2
卒業生総計	154

※ 2010年度高校卒業生進路状況

主な進学先と人数	
私立大学	桜美林 38 青山学院 15 日本 14 法政 13 専修 11 中央 10 明治 10 明治学院 7 成蹊 6 成城 6 東海 6 明星 6 立教 6 上智 5 東洋英和女学院 5 東京都市 5 他 計 271
国公立大学	北海道 1 東北 1 東京外国語 1 東京芸術 1 首都大学東京 2 横浜国立 2 横浜市立 1 東京農工 1 他 計 14
短期大学	8
専門学校	11
その他	56
卒業生総計	346

※ 生徒数 (2010.5.1)

	高校				中学			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
男子	116	180	158	454	72	93	76	241
女子	160	224	190	574	82	82	78	242
計	276	404	348	1028	154	175	154	483

5. 幼稚園

(1) 園児数

入園児数：68名（男児37名 女児31名） 2010年4月7日入園
 在園児数：163名（男児77名 女児79名） 2010年5月1日現在
 年長組：56名（男児33名 女児23名）
 年中組：54名（男児28名 女児26名）
 年少組：53名（男児27名 女児26名）
 卒園児数：56名（男児33名 女児23名） 2011年3月17日卒園

(2) 進学先

29小学校〔公立24校(49名) 私立4校(6名) NPO法人1校(1名)〕
 東京都 16校(36名)（町田市立12校(32名)、八王子市立3校(3名)、多摩市立1校(1名)）
 ①忠生第一3名 ②木曾境川2名 ③図師5名 ④小山中央3名 ⑤小山田5名 ⑥小山2名 ⑦小山田南5名 ⑧町田第一1名 ⑨町田第三1名 ⑩鶴川第一2名 ⑪小山が丘2名 ⑫鶴川第三1名 ⑬上柚木1名 ⑭宮上1名 ⑮柚木西1名 ⑯南鶴牧1名
 神奈川県 8校(13名)（相模原市立8校）
 ①旭1名 ②大野北3名 ③淵野辺2名 ④上溝1名 ⑤向陽2名 ⑥橋本1名 ⑦淵野辺東2名 ⑧横山1名
 （私立）4校(6名)
 ①相模女子大学小学部2名 ②玉川学園小学部1名 ③帝京大学小学校2名 ④早稲田実業初等部1名（NPO法人）1校(1名) ⑤横浜シュタイナー学園1名

(3) 教職員の状況

園長：1名 教頭：1名
 専任教諭：7名 非常勤教諭：7名
 事務・用務職員(パート)：4名 バス運転手(委託)：2名
 2010年4月採用専任教諭1名
 2011年3月退職者3名（非常勤教諭1名 事務職員1名 バス運転手(委

託)1名)

(4) 年間教育日数

教育日数：198日 教育週数：43週

一学期：4月6日～7月23日

二学期：9月1日～12月17日

三学期：1月11日～3月18日

※ 夏期保育 7/20～7/22 8/24～8/26 計6日間

※ 学校教育法第37条に、年間教育週数は39週を下ってはならないと定められています。

(5) 一日の教育時間

全日：月曜日、火曜日、木曜日、金曜日 半日：水曜日

全日：1班：8:30～13:50 2班：9:30～14:50

半日：1班：8:30～11:20 2班：9:30～12:20

(6) 年間目標

キリスト教精神を礎として教育の業を展開するにあたり、各学年は以下の通り年間目標を定めます。

年少：園児が神様に会い、神様に信頼する子どもとして育つ

年中：神様が一緒にいてくださることを喜べる子どもになる

年長：神様に感謝し、自ら隣人の為に優しさを届けることのできる子どもに育つ

(7) 主な年間行事

4月：進級式、入園式、イースター礼拝、親子遠足

5月：保育参観、母の日礼拝、避難引取り訓練

6月：父の日合同礼拝、家庭訪問、花の日礼拝、花配り、父親の為の講演会、公開保育Ⅰ、田植え

7月：年長組一泊保育(大地沢青少年センター)、夕涼み会、プール

8月：私立幼稚園教職員研修会、夏期保育、防犯訓練、プール

9月：災害時引取り訓練、昆虫観察会、クッキー作り、バザー、公開保育Ⅱ

10月：運動会、芋掘り、避難訓練、秋の遠足、稲刈り

11月：交通安全教室、福祉施設訪問、収穫感謝礼拝、野菜配り、親子ふれあいの会、入園準備会

12月：クリスマス礼拝・聖誕劇

1月：餅つき、絵本読み聞かせの会、個人面談、入園準備会、創立者召天記念礼拝

2月：どうぶつ村、豆まき、入園準備会、母親の為の講習会

3月：生活発表会、顕微鏡観察会、お別れ遠足、卒園式、修了式、入園準備会

毎月最後の金曜日：当月度誕生会

毎月第一水曜日もしくは土曜日：父母の会

(8) 本園の教育内容の特徴

①キリスト教保育

各クラスでは登園時、降園時には必ず全員で祈りをもってその日を始め、その日を終わります。また教会暦に従ってイースター、母の日、花の日、クリスマス等には園全体で礼拝を守り、神様に信頼を寄せ、また共にいて下さることを喜び、感謝できる幼子の心を育てています。

各学年とも、キリスト教保育連盟によって定められた年間主題を基に、各月の暗唱聖句を学び、毎日の礼拝において暗唱しています。

年間主題：主よ、あなたはわたしの希望（詩編 71:5）

暗唱聖句 4月：イエスが「おはよう」と言われた（マタイ 28:9）

5月：地はお造りになったものに満ちている（詩編 104:24）

6月：一緒に喜んでください（ルカ 15:6）

7月：いかに楽しいことでしょうか。主に感謝をささげることは（詩編 92:2）

8月：イエスはその一人ひとりに手を置いていやされた（ルカ 4:40）

9月：沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい（ルカ 5:4）

10月：空の鳥をよくみなさい（マタイ 6:26）

11月：愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてください（エフェソ 3:17）

12月：さあ、ベツレヘムへ行こう（ルカ 2:15）

1月：神は言われた。「光あれ」（創世記 1章 3節）

2月：わたしたちは、キリストに向かって成長していきます（エフェソ 4:15）

3月：あなたたちは わたしの宝（出エジプト 19:5）

②バランスの取れた保育

- ・通常のクラス単位での保育ばかりでなく、各学期 4 回、全体を 4 つのグループに分け、異年齢の園児が共に過ごす縦割り保育を実践。
- ・年長組の体育は、学園の体育館で大学の非常勤講師による授業を展開し、個々の運動の力を豊かに育む教育を実践。また英語も各学年ネイティブスピーカーによるレッスンを週一回実施。
- ・昆虫観察会、顕微鏡観察会においても大学教授の協力を得て、専門家の指導の下に園児たちが学べる機会を提供。
- ・復活の丘では、木登りをしたり、伸びやかに自然の中で駆け回る中で、命の尊さと、自然の大切さを学び、それらに対する正しい理解と態度を養う機会を持つことができました。
- ・「お仕事の部屋」と名付け、モンテッソーリ教育を通常保育に取り入れ、園児が自発的に「自分一人でするように手伝って」を言える環境を保育者が整え、園児が好きなことに集中して取り組む中で、個々の才

能を豊かに伸ばせる教育を実践。

- ・ 大学教授の指導の下、園庭で遊ぶ時間には、園児は基本的に素足にわらじを履いて遊びます。このことにより、土踏まずの発達を促し集中力を養っています。また健康管理の一環として、1年中を通し薄着・裸足励行を促し、抵抗力のある強い身体を保てるように配慮しています。

③保護者との関わり

幼稚園における育みは、それぞれの家庭と協力して一つの命を育む業であり、毎月の父母の会や保護者が関わる行事では、園長はじめ全教諭たちがそれぞれの立場で働きかけ、コミュニケーションのパイプを築く努力をしています。またなるべくこまめに個々の家庭と連絡を取り合い、信頼関係を保ちながら連携を深め、幼子の成長を共通理解をもって見守ることができるよう努力を続けました。

(9) 2010年度の主な出来事

毎年度共通する行事・教育の関する取り組みの他に、2010年度は特に以下の出来事を報告します。

①自己点検・自己評価の実施

2007年に改正された「学校教育法施行規則」により、幼稚園においても「学校評価ガイドライン」が示され、幼稚園運営の改善と保護者に対する情報提供を主目的として自己点検・自己評価に取り組むことが求められることとなりました。折しも2010年度からの学園の中期目標の一つとして「アカウンタビリティの確保」として、自己点検・評価は必須の活動と位置づけられ、幼稚園として、より良い保育環境を保育の更なる充実を目指し積極的に取り組むこととしました。

幼稚園としては、初めての取り組みとなる為、2010年度は、公正な視点で評価を行うために、専門調査機関が作成した「幼稚園における学校評価」の設問を活用し、経営者と職員がそれぞれ自己評価を行ったうえで、外部機関の厳正な検証のもとで結果をとりまとめました。また、これに合わせて実施した保護者の方々へのアンケート調査により、保護者の視点からの課題を洗い出すことも行い、これらの結果を基に、教職員全員で検証作業を続け、また今後の保育に生かす為、外部コンサルタント会社指導の下で、研修会を実施しました。

②預かり保育の利用増加

保護者の皆さんがこの制度をより利用しやすいものとする為、2009年12月に規則を大幅に見直した結果、2010年度の利用者は、以下の表のとおり大幅に伸び、子育て支援の一助を担うことができました。

預かり保育利用人数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2008年度	1	2	1	0	0	4	2	2	0	0	8	0	20
2009年度	1	2	9	5	0	19	2	2	10	7	14	37	108
2010年度	25	53	74	56	19	90	62	77	43	81	104	55	739

③木曜おにぎりの日の実施

保護者アンケートの結果から、毎学期4回木曜日に実施している「みんなの日」と名付けた縦割り保育の活動日だけを「おにぎりの日」としていたことが、かえって混乱を招く要因となっていることがわかり、毎週木曜日を明確に「おにぎりの日」と位置づけました。このことにより、木曜日の位置づけがよりわかりやすくなり、年長組から年少組の園児が一緒になっておにぎりを楽しみながら食べることができる環境が更に整えられました。

④中学・高校・大学との連携の深化

学園附属の幼稚園として、2010年度は以下のような大学、高校、中学校との連携、交流プログラムを実施し、学生・生徒のより良き学びの場となりました。

- ・健康福祉学群「保育コース」に学ぶ学生たちの実践の場として
観察実習の授業を履修している学生たちが、授業の一環として、園児たちの活動の様子を実際に観察することができました。
- ・健康福祉学群「健康科学コース」に学ぶ学生たちの研究の場として
わらじ保育を実践している幼稚園として、その効果がどの程度あるのか、また、足の裏が幼児期のどの段階で、どのように形作られていくのかを学生の研究の一環として、年長組の園児、保護者が調査に協力し、その結果を共有できました。
- ・総合文化学群「演劇コース」に学ぶ学生たちの学びの実践の場として
園児たちが演じるクリスマスページェントの舞台をより充実させる為、演劇コースに学ぶ学生たちの協力を得て、音響、照明等の舞台裏の操作を担っていただき、より効果的な演出で演じることができ、またそれを保護者の皆さんに披露することができました。
- ・中学生、高校生の職業体験の場として
これまで高校生への学びの場として、将来、保育士、幼稚園教諭を目指している生徒を受け入れてきましたが、2010年度は中学生にも枠組みを広げ、保育に興味のある生徒の職業体験の場として4名の中

学生を受け入れ、実際の保育が経験できる機会を提供しました。

- ・大学教授による講演会の開催
父親講演会の講師として 2010 年度は、桜美林大学健康福祉学群から教授を招き、100 名を超える聴衆を前に、大学硬式野球部の監督としての選手・学生の指導経験を軸に、日頃、どのように学生と接した彼らのやる気を引き出されているのか、ご自身の経験を交えて如何に若い世代を指導するか、そのコーチングの秘訣を講演いただきました（テーマ：「やる気を引き出すコーチング」）。

6. 施設・設備

(1) 建物施設関連の整備事業

- ①留学生宿舍「桜美林大学国際寮」が 2010 年 8 月末に完成し竣工式を挙行了しました。
- ②2009 年度売買契約した多摩アカデミーヒルズ（旧ウエルサンピア多摩）は今年度所有権移転が行われ大学施設として運用を開始しました。
- ③上小山田グランド野球場は開発行為許可に基づき施工業者を選定し 2011 年度の竣工に向け造成工事に入りました。
- ④滋賀県高島市に計画されている（仮称）清水安三記念館用地として、高島市等の協力により生誕近隣の農地が取得出来ました。2011 年度記念館建設に向けてこの土地の宅地造成工事を行う運びとなりました。
- ⑤軽井沢町に自然に親しみ学生・研究者等が教育実習の場として活用するための土地約 12,000 m²を取得しました。今後ここにどのような施設を配備するのか検討していきます。
- ⑥2011 年度に向けて桜寮の入居定員を 3 割増やし、毎年早々に満室となることで入居できなかった新入生・父母等から寄せられてきた苦情の解消を図ります。また老朽化したトイレ等の改装（洋式化）、ネットワーク整備を行い、寮生活環境の改善を行いました。
- ⑦四谷キャンパスは国際教育振興会との共有建物ですが、1 階部分を除いて他の階は学園所有となりました。
- ⑧待望館に車椅子昇降機を設置しました。これにより大学ゾーンの主要施設はエレベーターを含めてバリアフリー環境が整備されました。
- ⑨新宿キャンパス（大学院）を 2010 年 9 月に閉鎖しました。

【2010年度末の学園キャンパス概要】

2011年3月31日

	校地(㎡)	校舎(㎡:延床)	備考(登録上の設置校等)
町田キャンパス	186,296	112,074	大学・高校・中学・幼稚園・法人
町田キャンパス(借用)	25,868	—	大学・高校・法人
淵野辺キャンパス(PFC)	4,443	9,052	大学
四谷キャンパス	899	2,507	大学
伊豆高原クラブ	9,168	3,438	大学・高校・法人
多摩アカデミーヒルズ	16,771	22,021	大学
国際寮	3,051	8,653	大学
軽井沢	12,983	285	法人
高島	3,424	—	法人
合 計	262,903	158,030	

※新宿キャンパスは2010年9月に閉鎖

(2) 情報システム関連事業

1. 情報システムを安定に稼働させるため、以下の点について取り組みました。

- (1) 情報セキュリティ態勢の整備
- (2) ネットワーク環境の維持と改善
- (3) メール/ファイルサーバ等の維持と改善
- (4) PC 教室/教卓 PC 等の維持と改善
- (5) 教職員用 PC/複合機等の維持と改善
- (6) GAKUEN/e-Campus 等の維持と改善
- (7) 図書館システムの維持と改善
- (8) 周辺システムの維持と改善
- (9) e-ラーニング環境の維持と改善
- (10) 学生/教職員の ID 管理
- (11) サーバ仮想化環境の整備
- (12) 新教室棟の情報環境の整備

2. IT利用能力の向上

- (1) 職員の能力向上に対する支援

3. 学内業務プロセスの革新

- (1) 教職員に対する支援
- (2) 各種アンケートの実施

教育用の情報環境概要(2011年3月末現在)

学生および教員が利用できる PC 台数

利用者	利用目的	町田 C	PFC	四谷 C	計
学生用	授業用	680	62	0	742
	自習用	280	0	0	280
	多目的用	162	23	54	239
教員用	授業準備用	36	3	8	47
	研究室用	280	9	0	289
	計	1,438	97	62	1,597

キャンパス間のネットワーク本数と帯域

区間	本数	帯域 Mbps	摘要
インターネット接続	1	100	教育系・事務系の共用
町田 C-PFC 間	1	100	教育系
町田 C-PFC 間	1	10	事務系
町田 C-四谷 C 間	1	20	教育系(2008年3月開通)
町田 C-四谷 C 間	1	20	事務系(2008年3月開通)
町田 C-新宿 C(久保ビル)間	1	100(*1)	事務系(2010年9月解約)
町田 C-多摩アカデミーヒルズ間	1	100(*1)	事務系(2010年5月開通)

(*1)インターネット VPN 方式の為、実質速度は表示速度より下回る。

キャンパス内の無線アクセスポイント数

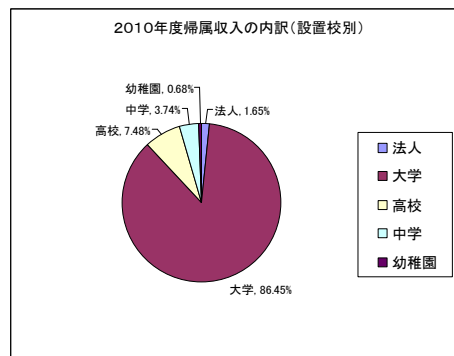
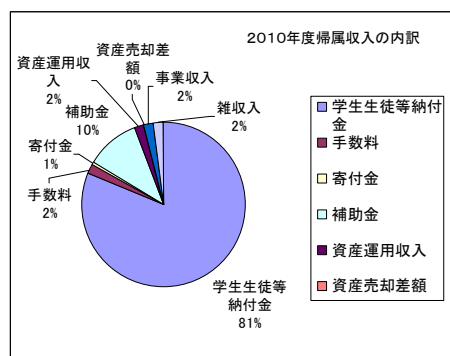
場所		台数	摘要
町田 C	明々館	53	2006年3月に敷設
	太平館	14	2009年3月に更新
	栄光館	2	2010年8月に追加・更新
	崇貞館	12	2009年3月に更新
	学而館	21	2007年9月に敷設
	理化学館	17	2008年3月に敷設
	図書館	3	2005年3月に敷設
	碩学会館	2	2010年8月に敷設
	徳望館	5	2010年8月に敷設
PFC		2	2009年3月に更新
四谷 C		20	2008年3月に敷設

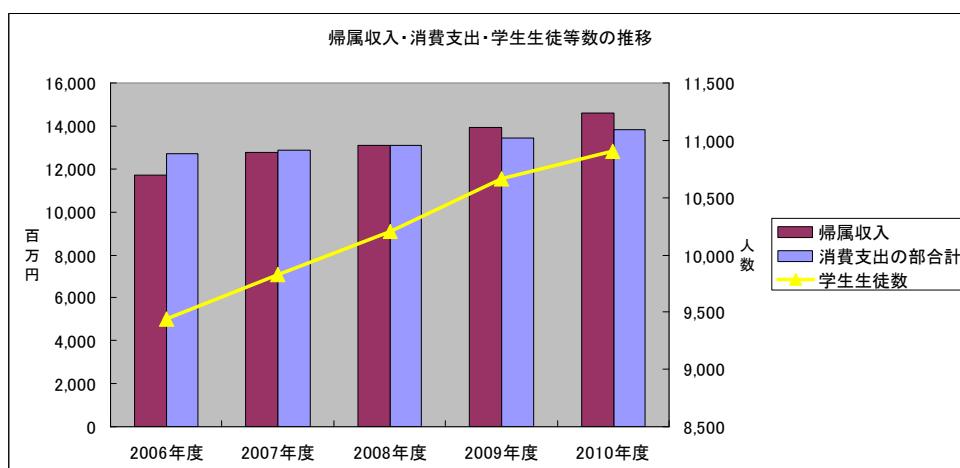
III. 財務の概要

1. 決算の状況

(1) 収入

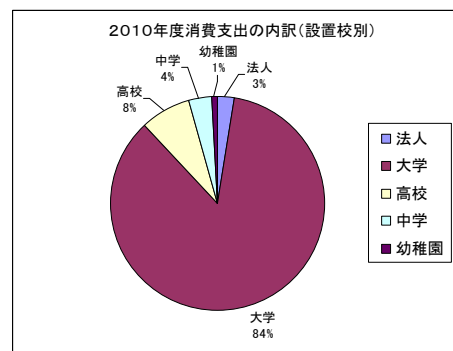
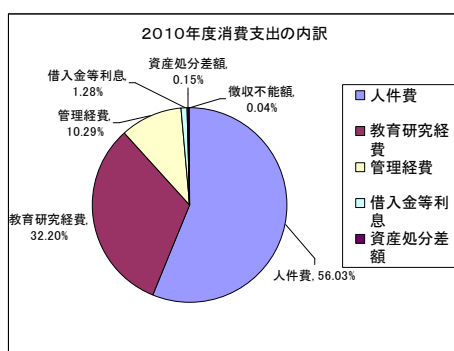
2010年度の帰属収入は、前年度比6億6千9百万円(4.8%)増の146億8百万円となりました。大学のリベラルアーツ学群が完成年度を迎えたことによる学生数増により学生生徒等納付金が3億円増となっています。また資産運用収入と事業収入については、多摩アカデミーヒルズおよび国際寮の運用開始などにより、資産運用収入で1億4千4百万円増、事業収入で3千9百万円増となっています。





(2) 支出

消費支出の合計は、前年度比 3 億 7 千 4 百万円 (2.8%) 増の 138 億 3 千 3 百万円となりました。支出増の主な要因は、人件費の 4 千 4 百万円増、教育研究経費の 4 千 8 百万円増、管理経費の 2 億 7 千 4 百万円増となっています。多摩アカデミーヒルズと国際寮の運用開始に起因する経費増が含まれます。



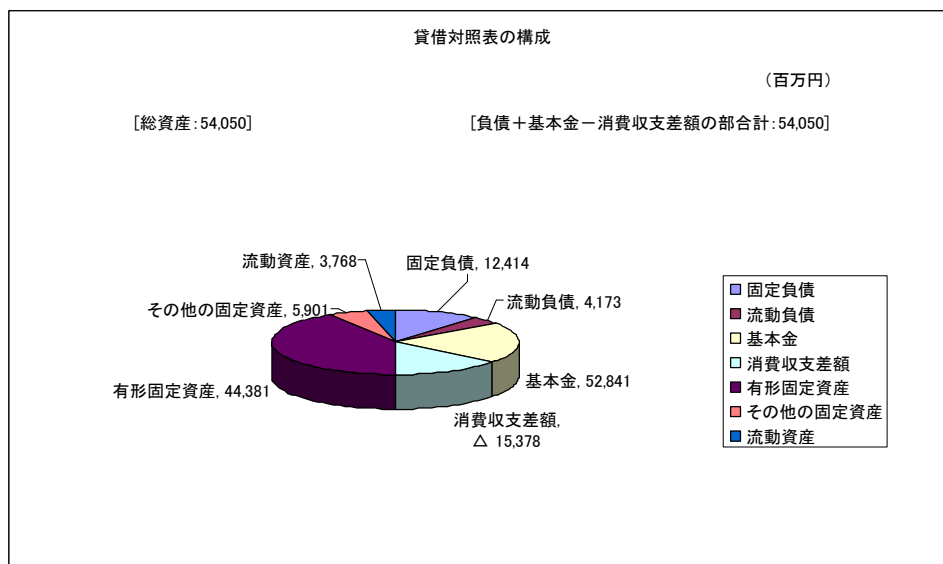
(3) 資産

資産総額は前年度比 18 億 6 千万円 (3.6%) 増の 540 億 5 千万円、負債総額は 10 億 8 千 5 百万円 (7.0%) 増の 165 億 8 千 7 百万円でした。資産増の主な要因は多摩アカデミーヒルズ等土地および建物の増によるもの、また負債増の主な要因はこれに伴う長期借入金の増によるものです。

第 1 号基本金は多摩アカデミーヒルズ等土地・建物の取得、および借入金の返済により、31 億 6 千 8 百万円を組み入れ、5 百億 9 百万円となりました。第 3 号基本金は大学後援会からの寄付金 (5 千 3 百万円) を組み入れ、8 億 3 百万円となりました。第 1 号から第 4 号までの基本金合計で、32 億 2 千 2 百万円増の 528 億 4 千 1 百万円となりました。

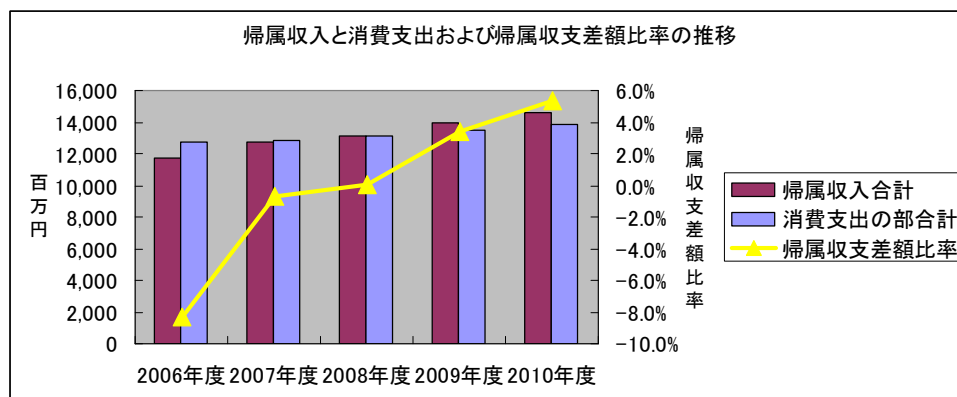
引当特定資産のうち、60 周年記念事業引当特定資産については 1

千7百万円を荊冠堂見合いの借入金返済として取り崩しました。また、あらたに大学教育充実引当特定資産として1億2千9百万円を繰り入れました。



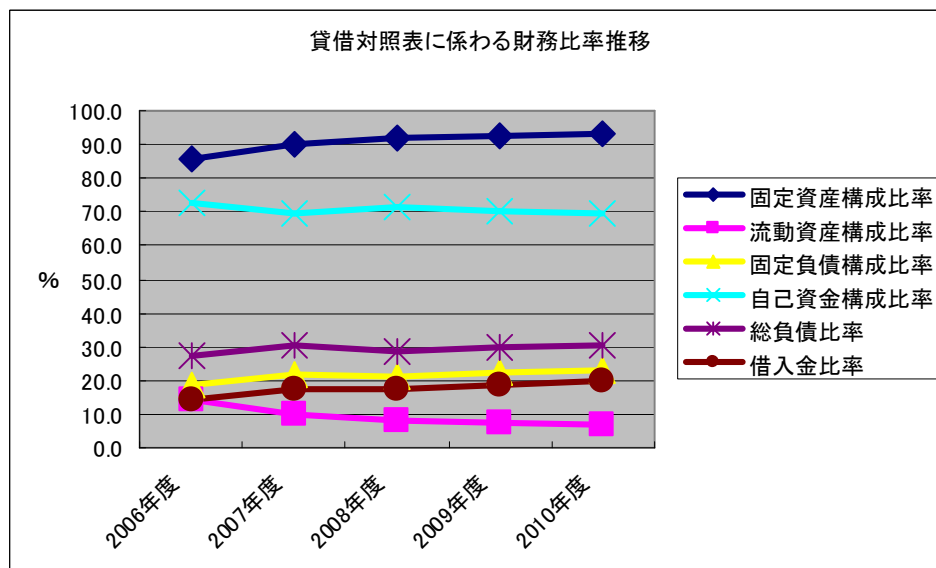
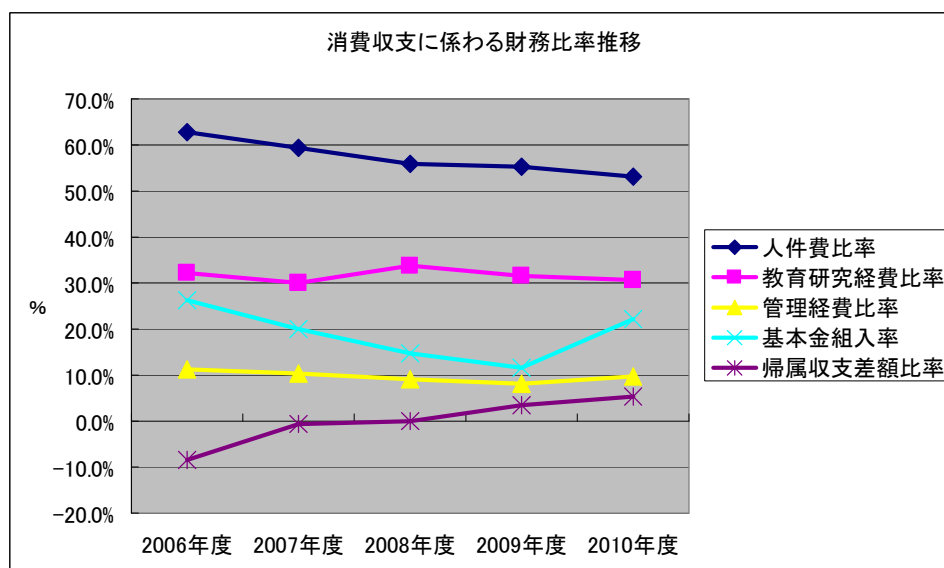
(4) 財務比率等

帰属収支差額は7億7千5百万円、帰属収支差額比率は5.3%となり前年度(4億7千9百万円、3.5%)に続いて改善されました。帰属収入の増加に対して消費支出の増加は緩やかです。



人件費比率は低下傾向にあり53%(前年度55%)、教育研究経費比率は30%前後、管理経費比率は10%前後で推移しています。

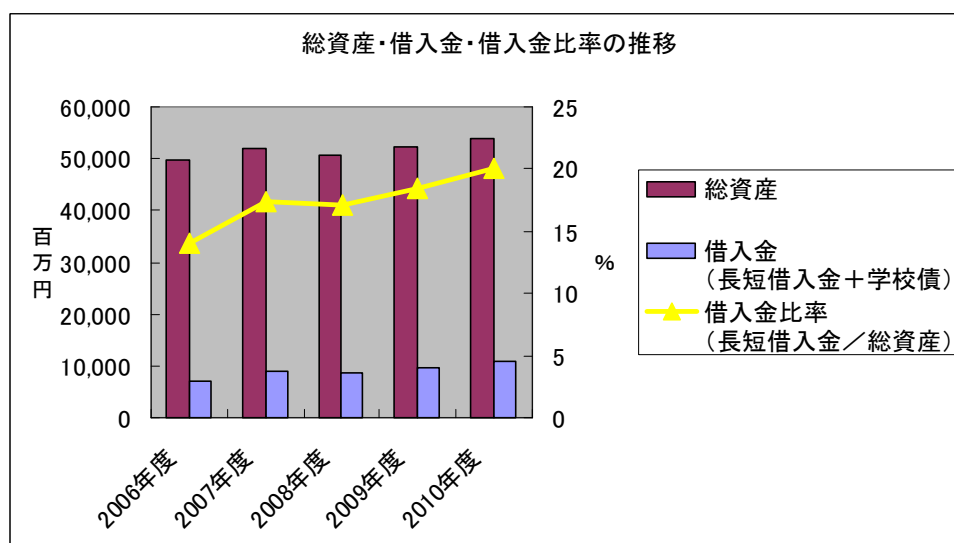
固定資産構成比率の緩やかな上昇に対して、流動資産構成比率は緩やかに低下しています。これは、近年の土地・建物の取得によるものです。



2. 資金調達および借入金の状況

2010年度の新規借入金は、多摩アカデミーヒルズおよび国際寮見合いの資金として市中金融機関から19億円、学園債の発行に伴う2億4千6百万円を含む21億4千7百万円でした。

2010年度末の借入金残高は長期借入金、短期借入金、学園債の合計で108億1千6百万円（前年度比11億8千2百万円、12%増）となりました。総資産に対する割合は20%でした。



3. 監査の状況

本学園の2010年度の財産の状況および会計処理について、公認会計士の監査ならびに監事の監査を受けています。

以上

学校法人 桜美林学園